助成事業報告集

平成 28 年度助成対象事業要覧

Kiguchi Foundation

公益財団法人 木口福祉財団

もくじ

● 平成２８年度助成事業の概要 ・・・・・・・・・・ Ｐ２

1.助成事業の趣旨

2.助成内容

3.助成予定額

4.公募

5.助成対象の選考

6.選考結果の通知および助成金の交付

7.対象事業の完了報告

● 平成２８年度助成対象事業要覧 ・・・・・・・・・ Ｐ５

● 選考委員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ９３

平成２８年度助成事業の概要

Ⅰ．助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、ボランティア活動や福祉活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

２．助成内容

Ⅰ　地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動やボランティア活動で、特に公的補助を受けることが困難である団体などに必要資金をお手伝いします。

（１）対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

（２）対象事業

・事業の立ち上げにかかる活動運営費
・工事費
・備品購入費
・調査、研究費
・講習会、イベント等の企画開催費

Ⅱ　被災地復興助成

被災地復興助成は、日本国内の自然災害等で甚大な被害を受けた被災地における障がい者等の生活、地域福祉の復旧、復興に取り組むボランティア活動、福祉活動をお手伝いします。

（１）対象団体

自然災害により甚大な被害を受けた被災地で、被災された障がい者を支援する活動に取り組む団体・グループ

（２）対象事業

申込事業の実施に必要な費用

３．助成予定額

年間の助成金総額　　36,000,000円

地域福祉振興助成　　24,000,000円
被災地復興助成　　12,000,000円

４．公募

（１）公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBでの申請または、申込書類一式を郵送で配付しました。

（２）公募期間

地域福祉振興助成　　平成28年3月14日から4月14日まで
被災地復興助成　　平成28年5月20日から8月10日まで

（３）応募件数

地域福祉振興助成　　169件
被災地復興助成　　16件

５．助成対象の選考

（１）一次選考

すべての申込案件について、6名の選考委員が書類選考を実施しました。

地域福祉振興助成　　一次選考による結果　49件
被災地復興助成　　一次選考なし

（２）聞取り調査の実施

地域福祉振興助成の一次選考を通過した49件について、6月から8月にかけて聞取り調査を実施し、団体ごとの調書を作成しました。

（３）最終選考

平成28年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額

地域福祉振興助成	43件	26,410,000円
被災地復興助成	16件	9,451,701円
合計	59件	35,861,701円

６．選考結果の通知および助成金の交付

（１）選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

（２）助成金の交付

各団体と「助成金に関する覚書」を交わし、振込みで交付しました。

７．対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

平成28年度　助成対象事業要覧

地域福祉振興助成　活動運営

P7　特定非営利活動法人手話技能検定協会

P9　公益社団法人認知症の人と家族の会

P11　特定非営利活動法人発達凸凹サポーターてくてく 児童発達支援・放課後等デイサービスてくてく

P13　特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会

P15　合同会社トリアングル　コミュニティカフェオモプラッタ

地域福祉振興助成　工事

P16　特定非営利活動法人はぁもにぃ永平寺　重症心身障がい児者福祉サービス事業所はぁもにぃ

P17　一般社団法人エデュケーションラボ　ちゃいさぽ教室

P18　特定非営利活動法人神戸つむぎ　学童保育つむぎ

P19　特定非営利活動法人アゲイン　アゲインファーム

P20　特定非営利活動法人ソーシャルサポートセンターひょうご

P21　特定非営利活動法人姫路こころの事業団

P23　特定非営利活動法人ざくろ　就労継続支援B型ざくろ

P24　特定非営利活動法人ワークサポート

地域福祉振興助成　備品購入

P25　一般社団法人くるり

P26　認定特定非営利活動法人つくばアグリチャレンジ　ごきげんファーム

P28　八王子自助具工房フレンズ

P29　特定非営利活動法人呼夢・フレンズ　作業所来夢

P30　特定非営利活動法人えん

P32　特定非営利活動法人じゅえる　生活介護事業所オランジュ

P33　MTIジャパン株式会社　MTIソーシャルワークス

P35　特定非営利活動法人ラーフ・ウッド福祉会

P36　特定非営利活動法人尼崎障害者センター　地域活動支援センターパソコン工房チャレンジ

P38　一般社団法人ひなせ　地域活動支援センターひなせの家

P39　ひょうご失語症者の会

P40　特定非営利活動法人支援の会ひまわり

P41　特定非営利活動法人ハートフル　手づくり工房ふるふる

P43　特定非営利活動法人アイ・サポートセンター

地域福祉振興助成　企画開催

P44　仙台西多賀　ENJOY　LIFE　STATION

P46　福島県自閉症協会

P48　特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS

P50　公益財団法人日本ダウン症協会

P52　ゆめぱレット

P54　社会福祉法人関西いのちの電話

P56　特定非営利活動法人神戸アイフレンド

P58　特定非営利活動法人クルーズ

P59　眼の会

P60　あかしユニバーサルフットボール連盟

P62　特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会

P64　一般社団法人高次脳機能障害者サポートネット　珈琲焙煎工房Hug

P67　みらいプラネット

P68　徳島DARC

P70　特定非営利活動法人ライフサポートはる

P72　元気のでるアート！実行委員会

被災地復興助成

P74　特定非営利活動法人ポラリス

P77　子どもの問題を考える会仙台

P79　ARTS for HOPE

P81　東北関東大震災の被災者を支援する市民の集い

P82　株式会社熊本地域協働システム研究所　指定共同生活援助事業所いこい計画

P83　特定非営利活動法人ル・シェルくまもと 就労継続支援B型事業所シャトレ

P84　社会福祉法人くまもと障害者労働センター

P85　社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会

P86　被災地障害者センターくまもと

P88　特定非営利活動法人あゆみ　生活介護支援センターあゆみ

P89　特定非営利活動法人熊本県難病支援ネットワーク

P90　特定非営利活動法人地域たすけあいの会

P91　特定非営利活動法人夢のかけら舎

P92　特定非営利活動法人夢屋プラネットワークス

特定非営利活動法人手話技能検定協会

http://www.shuwaken.org

【所在地】　東京都中央区　　【対象者】　聴覚障がい者、手話学習者

【日常の活動】

1. 受講料（年 3 回の定期試験と随時受験の集団受験）2. 書籍販売（手話辞書、過去問題集など）
3. 受講料（手話インストラクター講座）　4. 印税（手話辞書等）
5. 調査研究委託（大学等からの手話モデル、手話分析作業）

「高齢聾者の就労支援としての福祉農業実験」

実施内容

【助成額】100 万円

1. ハーブ栽培

新潟市西浦区越前浜下谷内 6867 に耕作地を借地し、NPOにいまーるの施設利用者と就労指導員を派遣。現地において、聴覚障がい者の作業に適しているか、作業効率はどうか、事業としての適否について、手話技能検定協会と指導者が実作業を指導しつつ判断する。事業全体の経理と作業工程および工賃管理は手話技能検定協会が行った。ハーブ栽培については、専門家の意見ではそれほどの専門知識は要しないとのことで、書籍等の知識で対応することとし、指導費を削減した。製品化と市場については、本年度は断念した。理由はハーブは単年度での収穫は不可能であり、継続的な事業展開が必要であることがわかったためである。

2. 干し柿作りと製品化

越前浜近隣の巻地区の柿団地農家に施設利用者を派遣し、摘果作業を手伝うことで仕入れを安くする計画であったが、受け入れ農家が見つけられずやむなく購入した。実験として千個を購入した。柿剥き器を手動、電動の両方を購入し、作業効率を比べたが、電動がはるかに早いことがわかった。剥いた柿を消毒するため、通常は焼酎で拭くのだが、時間と手間がかかるため、熱湯消毒にし、大鍋、コンロを購入した。干し柿を作るための建材を購入し、干し作業を実施したが想定外に手間と時間がかかり、千個処理に指導員も含めて 6 人がかりで 3 日間かかった。干した後も 2,3 週間おきに揉む作業もあり、3 回実施した。結果として消毒過程の不備で一部が黴たりした。また予想外の事態として、現地干し場とした家屋は無住のため、小動物の侵入があり、1 割近くが食い荒らされ、最終的な歩留まりが 8 割程度になった。柿のままの製品化ではなく、菓子作りなどの実験調査も実施したが、そのためには蒂や種の除去作業と冷凍保存が必要であり、冷凍設備を購入する経済的余裕はなく設置してあった冷蔵庫を利用したため容量が足らず、400 個程度しか在庫できなかった。菓子作りは現在も継続中であり見通しが立ってきた。

3. その他の農産物

当初の計画にはなかった農産物を栽培してみたが、土が合わず不作だったものが多く、出来たものは少数であったため、施設利用者の給食に供与するなどし、施設利用者に勤労の楽しみを与えた。

得られた効果

遠隔地であること、聴覚障がい者の作業には制限があるが、作業者は室内での内職作業より楽しく働けることがわかった。農作業のほかに古民家を利用したため、古民家の維持や囲炉裏、薪ストーブといった日常生活にない設備の利用を楽しめた。また干し柿の経験も新たな労働意欲の喚起に役立った。ハーブ栽培は耕作放棄地を持つ近隣の農家の関心を呼んだようであり、借地の話もでてきた。

問題点

農作物の中で現地の気候、土壌に適さないものがあった。結果として収穫ゼロのものがあった。また干し柿生産には予想外に労働集約が必要であることがわかった。また冷凍保存の場所と収納量に問題があり、一部を干したままにせざるを得なかった。ハーブの生育はよく、適地であることはわかったが、収穫には間に合わず将来への課題となった。

次の課題

農作業は単年度では成果が出すことが限られるため、継続的な支援が必要である。

公益財団法人認知症の人と家族の会

【所在地】　京都府京都市上京区　　【対象者】　認知症の人と家族

【日常の活動】

(1)認知症に関する正しい知識の普及及びその理解の推進を図るための講演会及び研修会の開催
(2)認知症の人とその家族に対する相談及び指導等の支援　(3)認知症に関する調査及び研究
(4)機関紙 steam 等の出版物の刊行及び交流　(5)内外の関連団体との連携及び交流
(6)認知症と介護に関する書籍の普及　(7)その他目的を達成するために必要な事業

「インターネットを利用した認知症介護家族の交流システム整備事業」

実施内容

【助成額】100 万円

「認知症の人の介護家族」と「認知症の人本人」のみ限定の交流サイトをインターネット上にオープン(設置)した。
親しみを持ってもらえるよう、愛称として、「alun- alun」と名付けた。これは、インドネシア語で「広場」を意味し、利用者が交流する広場になるようとの思いで付けられた。
設置やメンテナンスについては専門業者(株式会社イーストゲート)のシステム(SmartCore)を利用した。あまりインターネットに詳しくない介護家族等のために、表記(alun- alun)を変えるなど、わかりやすくする工夫を行い、ネット交流への参加呼びかけや広報、利用方法の案内、全国から募ったネット上のボランティア(世話人)の養成を中心に行った。
単なる掲示板のようなものではなく、フェイスブックのような SNS(ソーシャルネットワークシステム)の機能を備え、参加者同士の交流を簡単に行えるものとした。
これらのネット交流をきっかけに、リアルな交流(介護家族のつどい)につなげられるよう、全国の支部が実施する日常的な活動と連携を行った。
全国のボランティアには、具体的な操作方法だけでなく、交流が活発になるように、ネット上での書き込みを促し、交流を実際の支部活動に活かせるよう研修を行った。
なお、事業立ち上げ後(助成終了後)は自己資金または寄付金などを利用して、継続的に運営を行い、2017 年 6 月に実施する総会においても、alun- alun を議題のひとつとした分科会を開催し、介護者同士の交流をどのように図っていくかを考える。
alun- alun の書き込みで特に投稿が多く盛り上がったテーマは、「若年期認知症について話す掲示板」「認知症への非薬物療法」「あなたのストレス解消法」「認知症かもと疑った時、どうしましたか？」など。
チラシについては、20,000 枚を作成。全国 47 支部を通じて、会員・関連団体(行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター等)に配布した。また、新たに入会した会員、資料を請求してきた人に対しても配布した。

得られた効果

今回の事業は、会員の利用者同士の交流を主な目的としてきたが、「会が発行している会報をオンラインで閲覧したい」「情報をもっと発信してほしい」との希望もあり、準備を進めている。これは、つどいにあまり参加していない（できなかった）会員が、意見や要望を言って、積極的に関わってくれるようになったと考えている。
これまであまり活動に参加できなかった会員に対しても、インターネットでの活躍の場を提供することで、協力してくれるボランティアの幅が広がってくれることを期待する。

問題点

準備期間、システム設計、広報などに前半 3 ヶ月を要し、実質的には 2017 年 1 月から運用を開始したため、目に見える効果までには至っていない。利用者数は当初の広報期間終了後は、微増にとどまっており、継続的な広報、利用促進が必要である。
今後の大きな課題は、次の 2 つであると考えている。
①利用者数の増加に向けた広報:システムの魅力をより伝えるとともに、会の内外の人に対して、積極的な広報活動を行う。なお、現在新たなチラシを作成しており、全国で行われる講演会・会議などで積極的な配布を予定している。
②alun- alun 掲示板での積極的な発言:書き込み、それに対する応答などが活発に行われるように、ネット上のボランティアに積極的に取り組んでもらう。2017 年 6 月の総会はでは話し合う機会を予定している。

次の課題

利用者への広報・ネットコミュニティの運営が、大きな課題として残っている。
この部分が活発になることで、実際のリアルなコミュニティやつながりへと発展することを目指している。
今回の助成によるシステムの立ち上げにより、今後さらなる認知症を介護する家族、認知症本人の交流の活性化につなげていきたい。

特定非営利活動法人発達凸凹サポーターてくてく
児童発達支援・放課後等デイサービスてくてく

http://www.tekuteku.or.jp/

【所在地】 大阪府大東市　　【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

児童福祉法に基づく障がい児通所支援事業（児童発達支援･放課後等デイサービス）

「放課後等デイサービス開業のための運営資金および設備費」

実施内容

【助成額】100 万円

エアコン購入、活動運営費のうち家賃に充当。
障がい児通所支援事業をはじめるにあたり、全額自己資金をもとに開始する予定でしたが、木口福祉財団様の助成等もいただくことで、少し余裕をもったスタートをきることができました。
私たちが目指す児童発達支援･放課後等デイサービスは、「発達障がいだから、経験できない」ではなく、「発達障がいだから、いろんな経験ができる」をモットーに開所いたしました。長期休業期間以外は、個別、または少人数グループによるきめ細やかな療養を行いました。プログラムは、各個人に合わせて臨床心理士が策定いたしました。もともと自閉症の療育といえば、構造化などガチガチのプログラムを実施しているところも多いのですが、当事業所では、構造化のよいところは取り入れながら、指導員の裁量でゆるい設定もとりいれ、子どもたちの笑顔を大切にする取り組みを実施いたしております。
長期休業期間には、ドッグセラピー、プログラミング教室、親子ヨガ、ボードゲーム大会、クワガタ教室等さまざまな教室を開催いたしました。こちらの様子は添付の DVD に収録しておりますので、ごらんください。もちろん、こうした教室は私たちスタッフでは賄えませんので、外部講師に実施していただきました。いただいた助成金で余裕ができた分を、こうした外部講師への謝礼に回すことができたので、本当にありがたかったです。
また夏季や冬季に活動するためにエアコンは欠かせません。業務用エアコンは高価でしたが、馬力があってとても快適です。

得られた効果

当事業所では、当初から直接支援をするスタッフの質にこだわり、臨床心理士かつ教員免許をもつ児童指導員 2 名が中心になって切り盛りしています。他のスタッフも児童指導員資格をもつ者が大半です。このたび、厚生労働省は、「放課後等デイサービス」について、事業所における職員配置基準を「置くべき従事者を児童指導員、保育士又は障がい福祉サービス経験者とし、そのうちの半数以上を児童指導員又は保育士としなければならない」と厳格化する方向性を示しました。合わせて、事業者への「放課後等デイサービスガイドライン」の順守と、評価結果公表の義務付けを決定する方針も発表しました。私たちはすでにこれからの基準を満たす事業所ですので、なんら問題はありませんし、懸念されていた問題が明確化することで、私たちの活動がますます評価されることにつながったと自負しております。

問題点

立ち上げ事業であったので、スタッフも事務処理に慣れるまで時間がかかりました。効率的にすすめないこともありました。スタッフのお子さんがちいさかったり、親御さんの介護があったりと、スタッフ自身が落ち着かないこともありました。

次の課題

最近、遠方からの利用問い合わせも増えてきました。私たちの事業所が大いに評価されている結果だと思います。半面、受け入れられるキャパシティには限りがありますので、質を落とさずに最大限の利用者さまにどう支援していくかが課題となります。

特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会

http://hyogo-db.com/

【所在地】 兵庫県神戸市中央区　　【対象者】 盲ろう者

【日常の活動】

障害福祉事業サービス事業所「夢ポケット」同行援護、居宅介護、重度訪問介護事業
兵庫県立聴覚障碍者情報センター事業協力、盲ろう者向け通訳・介助員養成事業
生活訓練事業、生活相談事業、IT 相談事業

「ふれあいルーム開設準備資金と運営費」

実施内容

【助成金】100万円

・企画委員会の開催
　委員:5 名
　毎月 1 回開催:全 10 回
　内容:企画内容の検討　反省

・開所お祝い会　日時:平成 29 年 10 月 15 日(土)
　対象者:兵庫盲ろう者友の会会員、関係者(盲ろう者 18 名、非盲ろう者 33 名　合計 51 名)
　参加費:800 円
　内容:ランチ―盲ろう者がボランティアのサポートを受けて、買い物、準備を行った。
　オープンサンド、ゲーム―手話付合唱、ダンス
・ランチの会　日時:9 月より毎月第 4 水曜日　料理検討会を含む　合計 10 回
　対象者:盲ろう者　ボランティア
　参加人数:約 35 名(盲ろう者 15 名　ボランティア 20 名)
　参加費:300 円
　内容:友の会理事盲ろう者が責任者として一般盲ろう者の有志と、メニュー検討、買い物、準備を行う
　(担当盲ろう者 3 名　ボランティア 5 名)当日は有志盲ろう者とボランティアが調理、片付けを担当
・りぼんの会(裂き織の会)日時:毎月第 4 火曜日　全 7 名
　対象者:希望盲ろう者 5 名　スタッフ 7 名
　内容:作品を作り、販売し、盲ろう者の就労を目指す。
　　会報などで家に眠っている布を提供してもらい、スタッフ、ボランティアが自宅で布を裂いて材料を準備する。盲ろう者一人一人にスタッフをつけ、盲ろう者の希望を聞きながら、盲ろう者が作業を行いやすい環境を整備し進めている。
　　織った布をスタッフが製品に仕上げ、支援センターで販売している。
・サークルなかま　日時:毎月第 3,4 水曜日　全 14 回
　対象者:盲ろう者 15 名　ボランティア 25 名
　内容:第 3 週コミュニケーション訓練-低下した視力・聴力に応じて新たなコミュニケーション方法を身につける訓練。例(視力が低下し弱視手話を読み取ることができなくなり、触手話訓練を行った。墨字を読むことが出来なくなったので、点字の触読訓練を行った。点字ディスプレイを装備したパソコンの訓練をおこなった)
　　第 4 週:交流会　4 月:折り紙(あやめ、かぶと)　5 月:ストレッチ　6 月:クイズ
　　7 月:ミニ講演　出前講座「家庭での事故予防・熱中症・ケアライン」8 月:全国大会報告・感想
　　9 月:盲ろう者の工夫　10 月:触知式信号機　11 月:気功 12 月:ミニクリスマス会＆ランチの会
　　1 月:福笑い　2 月:ダンス　3 月:ボールで遊ぼう

・サークルなかま交流部会議
平成 28 年 4 月 27（水）6 月 22 日（水）8 月 31 日（水）10 月 26 日（水）12 月 21 日（水）
平成 29 年 3 月 29 日（水）

得られた効果

ひょうご盲ろう者支援センターは元町商店街の中にある。ランチの材料などの買い物は、盲ろう者とボランティアがペアになり、お店の注文を行ったり相談を行ったりした。商店の方々は非常に好意的で、「手話を学びたい」との声もいただいた。特別なイベントでの交流だけでなく、日常的な商店の利用を通じて、盲ろう者の理解が広がっていることを実感した。
盲ろう者の福祉制度は他の障害福祉と比べても非常に遅れている。全国的にも平成 24 年度より全都道府県で「盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業」がスタートし、障害者総合支援法において初めて事業が義務化されたところであり、事業の充実もまだまだな状況である。つまり、盲ろう者の外出支援が始まったばかりであり、盲ろう当事者が中心に事業を運営し、地域住民と交流できる場を確保できたのは、日本でも初めてである。ひょうご盲ろう者支援センターが開所したことは、全国的に大きな注目を集め、すでにいくつかの県から見学に来られたり、問い合わせも多くある。私たちの事業展開が全国の盲ろう者福祉のモデルとなり、盲ろう者福祉が進むことを期待したい。
今回助成で人件費、運営費の支援を受け、団体の組織の基盤を作ることができた。結果、多くのボランティアと交流する機会を作り、また事業を運営する課題について多くの方々と話しあうことができた。今後、多くの人たちとの連携を強めていきたい。

問題点

今回、行政から大きな支援を受け「ひょうご盲ろう者支援センター」に盲ろう事業をすべて移管していただくことになり、総合施設として運営することができた。障害を待つ盲ろう者が自身で事業を運営し、活動を行うためには、多くの支援と十分な準備が必要である。移管作業のため、今回助成を受け開催する予定だった事業の一部を行うことができなかった。事業運営には、しっかりした組織基盤が必要であると感じた。また、盲ろう者自身の手で事業を行うためには、十分な準備期間も必要であると感じた。

次の課題

事業を運営するためには、十分な計画、準備が必要である。しかし、盲ろう者自身が事業に関わること、また、盲ろう者の理解がまだ十分でないボランティアの方が関わることで、計画通りにすすまないことは多くある。また、多くの方が関わることで、それぞれの思いの相違も生じる。そうした様々なトラブルにどう対応するか、日ごろからスタッフが意識しておく必要がある。また、どうしても事業そのものを上手く進めることに目が行きがちであり、なんの目的で事業を行うのかを忘れがちになる。特に盲ろう者は、日常的に社会に参加しづらい状況にあり、あきらめが身についていることが多い。例えば、コミュニケーションに時間がかかるので、家族での話し合いに入れない。決まったことだけ伝えられ、いつも疎外感を感じている。だからこそ、兵庫盲ろう者友の会では、盲ろう者が中心になり、盲ろう者自身が運営に参加することを大切にしてきたが、多くの方が関わることにより、そうした理念が行き届かない、理念としてわかっていても、どう行動していくかわからない。という状況がみられることが増えた。
「盲ろう者の自立と社会参加」という団体の理念を守りながら事業展開できるよう、十分な準備と関わる方々との対話を丁寧に行いながら、事業を進めていきたい。

合同会社トリアングル　コミュニティカフェオモプラッタ

【所在地】　沖縄県宮古島市　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

主に精神障がいを持つ女性の就労によるコミュニティカフェ運営を就労継続支援 B 型事業として実施する予定です。
コミュニティカフェ開所までの間、利用希望者に対して前身事業として月に 1 度リラクゼーションやグループワークなど文化的な体験を提供するワークショップ事業を行う予定です。(全 5～6 回・無料)

「障がい者の働く場所としてのコミュニティカフェの開設」

実施内容

【助成額】100 万円

ビル内テナントの内装全体、外装の一部を
障害者総合支援法就労継続支援 B 型事業所の
施設兼授産事業カフェ店舗として改装

得られた効果

コミュニティカフェによる地域交流
本来の目的である「宮古島地域における精神障がいを持つ女性における飲食サービス業の授産施設のニーズへの対応」だけでなく、「コミュニティカフェ」による地域交流というまちづくりの観点でみた効果が得られ始めている。
平成 29 年 3 月までの実績
1. カフェ利用による病院デイケア、他施設との交流
2. 地元 FM 局への出演
3. ギャラリー、当事者の作品展に向けたピクチャーレールなどの設置
4. チョークアート体験サービス「宮古島思い出アート」とのコラボレーションによるワークショップをカフェで開催
5. 施設図書館・児童向け図書サービス「ありんこ文庫」とのコラボレーションによるありんこ文庫オモプラッタ分室の準備開始

問題点

特になし

次の課題

・多目的スペース
　面接、休憩、作業の機能を複合して行うにはスペースが小さい⇒2 階テナント退店の際に拡張予定
・授産項目
　カフェだけでなく、コーヒー豆の焙煎や菓子の委託販売等を行うことで、工賃アップに取り組む。

特定非営利活動法人はぁもにぃ永平寺
重症心身障がい児者福祉サービス事業所はぁもにぃ

【所在地】　福井県吉田郡永平寺町　　【対象者】　肢体障がい者

【日常の活動】

18 歳以上の重症心身障がい者を対象とする「生活介護」
重症心身障がい児の就学児童を対象として放課後と学校休校日に利用できる「放課後等デイサービス」

「医療ケアが必要な障がい者の多機能型通所施設の改修」

実施内容

【助成額】32 万円

①スロープ取付工事
事業所前、正面玄関に段差があったため、車いす使用者が車両から直接事業所内に入る際、これまではスタッフが抱えていた。今回スロープが設置されたことにより車両から直接車いすに乗車したまま、事業所内に入ることができるようになった。また、踊り場を広げたことにより、安全に車いすを回転させ、建物の中に入ることができるようになった。

②南東スロープ取付工事
これまでもスロープはあったが、狭く車いすが通りにくい状況で使用していた。今回の工事は、安全にスロープを利用できるように、スロープ幅を広げることにした。
工事施工によりこれまでスロープ使用時に狭い故、脱輪し車いすが傾くといった事故もあったが、そのようなことはなくなり余裕をもってスロープを通ることができるようになった。

③テント取付工事
車庫上部に屋根がなかったため、利用者が車両より玄関に入る際、雨にぬれがちであった。（病弱の利用者であるため）雨にぬれずに出入りできるように車庫上部に開閉式テントの取付を行ったため、安心して利用できるようになった。

得られた効果

事業所の前にはバス停があり、雨の日の待ち場所として地域の方にテント下を利用してもらっている。

問題点

特になし

次の課題

テント取付にあたり、本体の車庫枠が破損した。原因としては老朽化（築 20 年以上）が考えられた。今後、建物全体の他の部位についても破損が発生する可能性があると思われ今後も肢体不自由者の利便を図るための改修に伴う補修の必要性が課題として考えられる。

一般社団法人エデュケーションラボ　ちゃいさぽ教室

【所在地】　兵庫県神戸市東灘区　　【対象者】　発達障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

・神戸市指定の障害児通所支援事業所。児童発達支援と放課後等デイサービス「ちゃいさぽ教室」を運営

・その他各種研修事業

「障がい児通所支援事業所改修工事費」

実施内容

【助成額】63 万円

クロス貼替工事

3ヶ所9面壁面クロスを撤去。貼替え。ホワイトボード機能付き3ヶ所に設置。

別注扉取付作業

計12個の壁面棚の上下サイズを合わせ扉を設置。棚内の突起物（蛍光灯器具）を撤去

玄関床貼り替え

得られた効果

壁面の棚を扉でカバーし白く統一することで事業所が広く見えるようになり、より居心地の良い場所を感じられるようになりました。

また清潔感が出て、保護者の印象もさらに良くなりました。

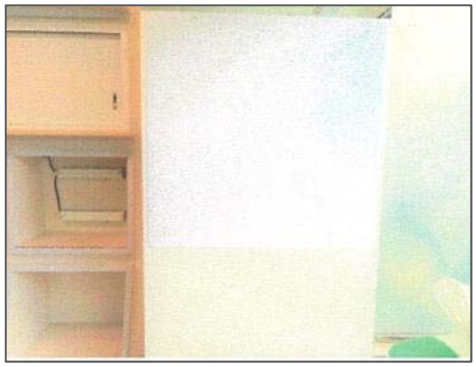
問題点

特になし

次の課題

壁のはがれがなくなり、教材遊具が戸内に収まり見えなくなったことで、子供たちの気分も変わり集中して学習できるようになりました。

壁面にホワイトボードが設置されたので、学習や研修・イベント等に広く活用できるよう企画していきたいです。



特定非営利活動法人神戸つむぎ　学童保育つむぎ

【所在地】　兵庫県神戸市東灘区　　【対象者】　児童、発達障がい児、聴覚障がい児、知的障がい児

【日常の活動】

神戸市の児童放課後健全育成事業の助成に基づく学童保育事業
その他障がいのある子どもを育てる家庭の家族支援

「学童保育拠点の移転に伴う障がい児受け入れ環境整備事業」

実施内容

【助成額】70 万円

移転先の物件の改修。特に肢体不自由の子ども、発達障がいのある子どもが「自分の空間」を確保して安心して放課後を過ごすことができる空間の整備を行いました。具体的には、玄関の拡張と屋根増設、アプローチのスロープ設置、トイレの改修、二重窓の設置、仕切り壁の撤去などです。

得られた効果

移転や環境整備を伴う工事について近隣住民の方たちに説明して回ることによって、周囲の方たちの学童保育事業に対する理解が促進されました。

学童保育を利用する子どもたちそれぞれの放課後の生活満足度が上がり、子供たちどうしの関係の改善がみられ、保護者の安心感も増したように感じられます。また、受け入れ可能人数も増加し、これまで以上に障がい児の利用も受け入れやすくなりました。

学童保育指導員の働きやすさも向上しました。それに伴って、地域の方たちの協力を得られやすくなり、スタッフの慢性的な人手不足が解消しつつあると同時に、地域で子供たちを見守るという「つむぎ」の理念に一歩近づいたように感じられます。

問題点

特になし

次の課題

「つむぎ」の学童保育事業は、地域のさまざまな人たちがかかわる中で、地域の中で子供たちを育てていくというコンセプトで取り組んでいます。地域のネットワークに支えられて日々の活動を行うことができていますが、近隣住民との個別の関係という点では、悩ましいことも多い現実があります。移転も、近隣住民の方たちとの関係づくりを最優先課題としながら取り組みました。今回の事業では、「迷惑と思われない」ところまでの学童保育事業への理解が促進されたと感じられます。今後は、その上に「地域社会に貢献する事業」として学童保育事業の理解を進めることが課題であると感じています。

特定非営利活動法人アゲイン

http://www.again.or.jp

【所在地】　兵庫県神戸市西区

【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、肢体障がい者

【日常の活動】

障害福祉サービス事業
就労移行支援（定員 10 名）、就労継続支援 B 型（定員 40 名）、就労継続支援 A 型（定員 10 名）
主に上記の就労 3 サービスを行っています。授産事業としましては、農場（約6ヘクタール）にて野菜の袋詰め出荷作業、野菜を使ったパンの製造・出荷作業をメインに行っております。

「障がい者就労支援のための施設改修工事」

実施内容

【助成額】100 万円

様々な事情があり、自宅からの通所が出来ない利用者のための寮を改修しました。皆さん大喜びであり、今後もこのような方々の受入を積極的に行っていきたい。

得られた効果

昨今問題となっている障がい者の虐待・貧困に一石を投じる事ができたのではないかと考えております。

問題点

特になし

次の課題

今後まだまだ宿泊支援を必要としている人が増えておりますが、物件を確保する費用等が捻出できない状態です。

特定非営利活動法人ソーシャルサポートセンターひょうご

http://www.ssc-hyogo.com/

【所在地】 兵庫県神戸市西区

【日常の活動】

介護サービス包括型指定共同生活援助

【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、肢体障がい者、発達障がい者

「農作物の出荷作業スペースの整備」

実施内容

【助成額】33 万円

施設移転後の、給排水設備に不足がある為、この度の助成事業を受ける事により屋内外での給排水設備を充実し利用者がより快適に作業を行う事が出来る様以下の設備整備工事を行う。

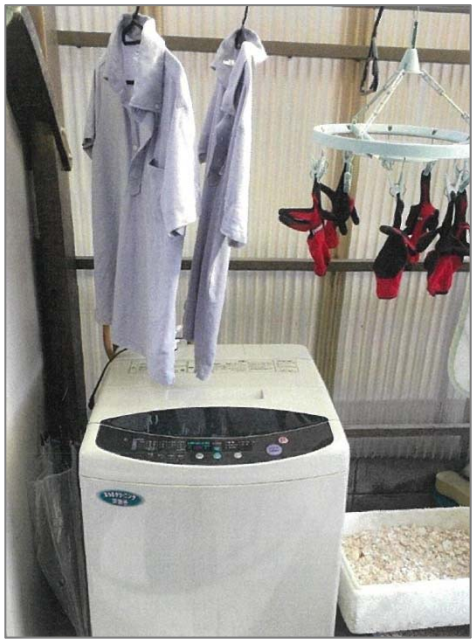
・屋外流し台設置給排水工事→農作物の洗浄等
・屋外洗濯器設置給排水工事→農作業時の衣類や手袋等の洗濯
・屋内流し台給排水工事→屋外での作業が困難な利用者が農作物の洗浄等

得られた効果

この度の設備工事の改修に伴い、利用者様の方々から水回りが大変使いやすくなったとの感想を多数いただいています。通所される利用者の皆様が作業をしやすくなることは職員にとっても大変嬉しく作業工程の説明や安全面の配慮においても作業効率が良くなった。

問題点

特になし



次の課題

この度の申請事業では給湯器の設置工事を行っておらず、現在作業所において給湯設備が不足している。

特定非営利活動法人姫路こころの事業団

http://himeji-kj.org/

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

1、地域活動支援センター
引きこもりや不登校などで心のバランスを失った人々が、癒しと生きる意欲を取り戻し、生き生きと社会生活を送ることが出来るよう障がい者総合支援法に基づき、居場所の提供・生活相談・生活リズムの改善指導を支援しています。

2、就労継続支援 A 型
一般就労は困難だが、職業指導員の支援を受けることによって勤労に要する「体力・気力・忍耐力」等を体得し、知識・能力の向上の訓練の雇用契約を締結して実施している。

3、就労継続支援 B 型
雇用契約を締結して就労する事が困難な利用者を対象として、就労訓練の機会を提供し、自分で選択したことに責任をもって取り組むことを目指す支援を実施している。

4、地域連携行事の開催
別所ファームガーデンにあるシンボルツリーの桜をメインテーマに例年さくら祭りを主催し、地元自治会及び市内幼保育園児などとの交流事業を実施している。

5、地域教育機関との連携
兵庫大学のロコモケア・姫路大学の森遊び（森の幼稚園）・姫路独協大学との授産品を基準とした商品開発などを通じて地域発の連携事業を企画検討している。

6、各種 Workshop の展開
様々な分野の専門家セラピスト（Volunteer）の協力を得ながらハーブ石鹸製造、自然植物を題材とした染色によるストール造り、音楽家によるミュージックセラピー等の Workshop を展開している

「別所ファームガーデンの開墾地の灌漑用井戸の掘削」

実施内容

【助成額】100 万円

1、目的
荒廃地であった山野を新たに、約4000坪を開墾して農地として利用可能な状態とした。将来的には、市民農園等として、一般市民の方々と障がいを抱える利用者様の共生を図る事も視野に計画している。農園として活用する為に、灌漑用の井戸を整備することを目的とした。

2、実施内容
(1) 井戸の掘削整備　　円径φ900mm（外径φ1000mm）
構造　コンクリートヒューム管埋設（深さ6m40cm）
方式　　電動自動ポンプ汲み上げ
(2) 電源工事　　電源取り込み鋼管支柱埋設
電源ブレーカー、コンセント（2p×2基）設置
(3) 成果　　最大湧出量　毎分1000リットルを確認

得られた効果　特になし

問題点　特になし

次の課題

市民農園開設に向けた今後の開発計画

①市街化調整区域に於ける市民農園必須施設計画

必須施設が建築基準法を満足する必要があり、今後、各種行政手続きが、多方面で発生する。建築士を交えた検討を実施する事になった。

②当該地に存する公共用地使用に係る手続き

当該地に水路が横断しており、行政への使用許可等の諸申請・許認手続きを要する事になった。

③解決方法

行政の支援並びに関係公社の援助を受け開発計画を推進することとする。

特定非営利活動法人ざくろ　就労継続支援Ｂ型ざくろ

【所在地】　兵庫県三木市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者、肢体障がい者

【日常の活動】

≪小規模作業所の運営事業≫
・プラスチックのバーにシールを貼り、工事現場用の安全ポールを作る作業　・畑での野菜つくり
≪主に障がい者を対象としたイベント開催事業≫
・24 時間テレビの募金活動（会場を借りて、地域の方にもイベントに参加していただき、ダンスや楽器の演奏、カラオケを歌ったりして交流を深めています）
・クリスマス会（近隣の老人ホームの方や、幼稚園の子供たちとゲームをしたり、ケーキを食べたりして交流を深めています）
≪交流スペース運営など地域住民との交流および支援事業≫
・作った野菜や小物を販売しています　・毎朝近隣の掃除をしています
・バザー会場での野菜販売をしています
≪余暇支援≫
・お花見（お弁当を持って公園に出かける）・サマーキャンプ（コテージなどに１泊）・ぶどう狩り
・お祭りの参加（三木市の夏祭り、花火大会、秋祭り）・日帰りバス旅行（年 2 回）
・お風呂屋さんでの入浴・初詣・お誕生日会での外食やカラオケ
≪権利擁護≫
・福祉サービスについての相談をうけ、情報提供、助言をします
・福祉サービスを利用するための手続きのお手伝いをします
・福祉サービスの利用料の支払いのお手伝いをします
・福祉サービスについて不満があるとき、苦情解決のための制度を利用する手続きをお手伝いします
・以上の援助に関して、日常的な金銭管理を行います。たとえば、年金を受け取ったり、医療費や税金、保険料、公共料金などを支払ったり、預金や貯金の出し入れのお手伝いをします
≪スポーツ・文化活動≫
・各スポーツ大会への参加　・絵、作品の出店（三木市等）

「作業場改修工事」

実施内容

【助成額】55 万円

・物置にしていた和室を安全ポールの作業場に改修　・トイレ前の段差をなくし、スロープに改修
・トイレをウォシュレットの暖房便座に交換（電気工事込）・洗面台交換

得られた効果

施設を訪問される方や近隣の店舗や住人の方にも、施設として、より良い環境づくりに努めている姿勢も知ってもらえました。

問題点

特になし

次の課題

対外的に施設の状況や姿勢を知ってもらうことも、とても大切だという事が分かりました。施設としての向上心が見えると、近隣の方々のご協力なども違ってきたように思います。基本的なことですが、地域の方々とどんどんふれあいをもって活動していけるよう努めます。

特定非営利活動法人ワークサポート

【所在地】　岡山県美作市

【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、肢体障がい者、発達障がい者、難聴患者

【日常の活動】

当事業所では、障害者総合支援法に基づく就労継続支援（B 型）であり、雇用される事の困難な方に通所して頂き、地域社会において、自立した豊かな生活を営む事が出来るよう、福祉の促進と社会復帰に関する事業を行い、障がい者福祉の促進に寄与する事を目的とします。

「洋式便器 2 基設置、換気扇コンセント取り付け、窓設置」

実施内容

【助成額】76 万円

利用者の精神面、体調面、衛生面を改善するための共同トイレ男女個別化改修工事

得られた効果

精神面・体力面・衛生面を改善する事により、一人でも多くの利用者さんが安心して利用出来ているようです。
特に発達障がいの利用者の方は、トイレにも強いこだわりがある為、洋式トイレでないと用が足せず外部のトイレを使用しなければいけない事も今迄あり、現在では安心して座って一人の時間を過ごす事が出来、作業中も以前より落ち着いて集中している様子がみられる方が数人おられます。

問題点

特になし

次の課題

今回の事業を通して、今迄利用されている方もトイレの衛生面や洋式が良いと思われている方が多くおられた事が分かり、トイレを改修する事により、安心感が保たれ仕事の効率も良くなる事が実感出来ました。
更に見学に来られ、当事業所を作業体験し、利用される決め手の中にもトイレは大きな要因の一つである事が分かりました。
今後も今回のご助成いただきトイレを改修できた事を大きな改善点とし、今後も一人でも多くの障がい者の方が利用できる様、地域の障がい者・高齢者の方の為にも頑張りたいと思っておりますので、これからも宜しくお願い致します。本当にありがとうございました

一般社団法人くるり

【所在地】　兵庫県神戸市東灘区　　【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■「ワークハウスくりの木」（就労継続支援 B 型事業所）の運営
農作業（菌床椎茸栽培、野菜作り、梅干し等加工品）、市内事業所の清掃委託、下請け内職
木工加工品の製造（コースター、鍋しき、カード立て等）、ワインコルクのリメイク製造
地域イベントの屋台出店　等

「製品運搬、利用者送迎、地域行事参加のための車両購入」

実施内容

【助成額】80 万円

■軽ワンボックスカーの購入（ダイハツハイゼットカーゴ）
菌床椎茸・野菜の出荷、委託作業の運搬、利用児・者の通所利用時の送迎、
地域イベントの屋台販売の機材、食材搬出入　等

得られた効果

1. 新しい車両が配備されたことで、利用されている障がい児、働いている大人の人たちがとても喜んでくれました。もともと明るい事業所ですが、出荷に出かけたりするとき、利用者はいつもより積極的に荷物を運び入れ、モチベーションも上がったようにおもいます。
2. 新しい車両配備について関係機関に話したらとても喜んでくれました。今まで以上に地域への参加と地域貢献を期待されました。
3. 出荷作業が楽になり、営業範囲も広げられる状況になったので、ワイン、シャンパンコルクのリサイクル作品を仙台の障がい者施設作品を販売するアンテナショップに、販売交渉を開始しました。
4. 上記以外の生産活動もスムーズに動き始めているので、販売増につなげ、工賃向上を目指していく。

問題点

特になし

次の課題

新しい車両の配備で、軽ワンボックスワゴンが 1 台確保できたことにより、生産物の出荷、送迎、屋台の準備等で効率がとてもよくなったと改めて実感しています。今までは大きなワンボックスを使って、少ない人数を迎えに行っていたり、さほど多くない量も大きなワンボックスで対応したりで、やりくりと工夫と体力で対応してきました。それは、効率的な施設運営ではなく、無駄も多かったと反省しています。こんごも効率的な施設運営に励み、働く環境の改善、支出の無駄の改善などに取り組んでいきます。

認定特定非営利活動法人つくばアグリチャレンジ

http://www.gokigenfarm.com/

【所在地】　茨城県つくば市　　【対象者】　肢体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援 B 型と、就労継続支援 A 型のサービスを提供している。合計で、私達の農園に通う障がいのあるスタッフは全員で 79 名である。そのうち、9 名が就労継続支援 A 型のスタッフであり、70 名が就労継続支援 B 型のスタッフである。一日の平均人数は 52 人である。

このメンバーと 3 つの農業に関する事業に取り組んでいる。1 つは自分達の農地で野菜を作り、地域のお客様に野菜セットを販売する事業。約 250 世帯の地域の人に野菜を届けている。2 つ目の事業は、担い手不足の農家さんに私たちがお手伝いに行く事業。毎日 3 件の農家さんのお手伝いに行き、毎月合計で約 70 万円の売上である。3 つ目の事業は、地域の人を対象にした体験農園事業。約 250 名の人が、私達の農園で農業を楽しんでくれています。この事業は、収益に加え、地域の人たちと私達を繋ぐ事業だと考えている。

これらの 3 つの事業に取り組み、大切にしていることは、ちゃんと障がいのある人達にお給料を払えていくことである。私達は、B 型のスタッフには一日 1200 円の工賃と交通費を最低限支払うようにしている。また、ただ工賃を増やしていくだけでなく、事業を通じて地域と繋がっていくこと、地域の人たちにしっかりと貢献することを大切にしている。

スポーツに関しては、毎週金曜日にマラソンに取り組んでいる。今年のつくばマラソンには、多くの障がいのあるスタッフと共に参加する予定である。また、スペシャルオリンピックスの茨城支部と合同で運動会を実施する予定となっている。

また、その他としては、収穫祭や餅つきなどのイベントに取り組み地域の人たちにもっと障がいのある人達の働きぶりを知ってもらうためのイベントを実施している。この二回のイベントで約 550 人の人たちがごきげんファームに来てくれた。

その他にも、地域の保育園と一緒に巨大キャベツ作りのイベント、ニンジン掘りのイベントや、地域の児童館とカレー作りのイベントなど地域の方に積極的に農場に足を運んでもらい、農業を楽しんでもらう機会を作っている。もちろん、そのイベントの中心となっているのは、障がいのある人達であり、地域の人たちに野菜の作り方などを教えることで自信を得るいい機会となっている。また、地域の人達から、いつも美味しい野菜をありがとうと言っていただける機会でもある。

私達の活動を知ってもらい、障がいについても知ってもらい、共に助け合える関係性を創るための大切なイベントとして取り組んでいる。

「ごきげんファームの二拠点目を開始する事業」

実施内容

【助成額】100 万円

ごきげんファームの 2 ヶ所目の拠点として、「ごきげんファーム茎崎（就労継続支援 B 型。定員 20 名）」を開始するための車両の購入

得られた効果

今回の事業は車両の購入であるが、新しい事業所を開設することが目的であった。障がい者の人をこれまでより多く受け入れることができるようになったことに加えて、有機稲作、竹林管理の仕事を始めることができた。既存の事業所で取り組んでいた有機野菜セットの販売に対する波及効果は大きいと感じている。高付加価値の農業を、環境に優しい形で展開し、障がい者に対する高い工賃を支払うモデルを作っていければ社会的価値も大きいと考えている。

問題点

二ヶ所目の事業所で最も力を入れ取り組もうと考えていた、養鶏の事業を開始する場所が決められていない。

次の課題

本来は養鶏を始める予定で考えていたが、場所が決まらない。鳥インフルエンザがテレビでよく取り上げられていたため、慎重に考える人が多いと感じている。

八王子自助具工房フレンズ

【所在地】　東京都八王子市　　【対象者】　肢体障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

利用者（肢体不自由者等）様の依頼により、自助具をボランティアで製作提供。
地域住民に自助具を知ってもらう活動。
自助具の工夫、開発、他自助具製作団体との情報交換。

「自助具製作用加工工具の購入」

実施内容

【助成額】13 万円

物品購入

マキタ製丸のこ盤、専用スタンド、ホルダーセット（集塵機用）、
マキタ製木工用集塵、集塵機用フード、木工ダストバッグ

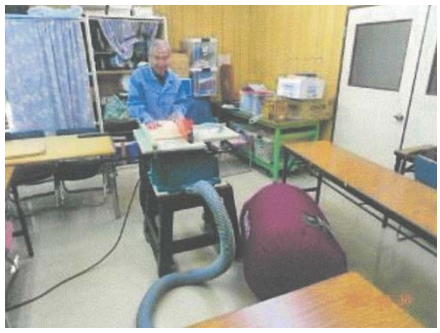
使用状況

比較的大型木工製品の製作依頼や斜め切り、傾斜切りの必要な加工に威力を発揮、且つ安全作業が一段と向上した。例えば発達障がい児用机上遮蔽板（他人の視線が気になり、授業に集中出来ない児童に使用）、歩行困難の肢体不自由者向けキャスターボード製作等

得られた効果

我々は、本来肢体不自由者、発達障がい者向けの自助具製作活動を目指し設立したが、この度の機器導入で、大きな木工製品の加工が容易になり、年々増える就学児の普通学校（学級）への進学のため、普通校に完備されていない、障がい児用設備（高さ、幅、奥行可変椅子、車椅子対応机、姿勢保持が強化された机上斜面台、他人の視線を遮る机上遮蔽板等々）の製作依頼が増えるとともに、障がい児用教材開発の依頼も来るようになった。また高齢者支援団体から、認知症予防にと、簡易ジグソー（8 ピース程度）等の製作依頼もふえてきて、当初の自助具のみならず、肢体不自由者をはじめ、弱者の自立や、お手伝いが徐々にできるようになってきた。

問題点



木工用集塵機は、丸のこ盤から出る切粉（おがくず）を吸引する布製のダストバッグを有した掃除機であるが、塵埃を吸い込むと、このダストバッグが予期していたより大きく膨らむため、会議室での作業場が狭くなり、同時に他の作業をするのに支障をきたす。

次の課題

①早急に常設の作業場所の確保が必要になってきた。

②関東における自助具の認知は想像していた以上に低いので、自助具自体や自助具を作るボランティア活動グループの存在のPR活動が一層必要である。

③自助具は利用者個人に合わせて作るので、面談、試作の繰り返しであり、余り遠方の方には対処しづらい面がある。このため近隣市町村に自助具製作ボランティア活動グループの設立を広め、短時間で利用者様へアクセスできるようにし、利用者の要望を可能な限り、取り入れた自助具が提供できる製作システムも作りたく、動き始めている。

特定非営利活動法人呼夢・フレンズ　作業所来夢

http://www.com-friends.com

【所在地】　三重県四日市市　　【対象者】　知的障がい者、重複障がい者（身体と知的）

【日常の活動】

就労継続支援 B 型事業所の運営

・餃子製造　・押し花カード作り　・廃油石鹸作り　・下請け仕事　・キッチンカー出勤　・畑作業

「新規ゴマ栽培にかかる環境整備事業」

実施内容

【助成額】52 万円

[「ゴマ栽培に取り組むための環境整備事業」ということで、備品類の購入申請をさせていただきました。実際のゴマ栽培につきましても試行的に取り組みました。

2016 年 4 月に土地（8 アール）を借り、耕運機やその他道具類は他の畑のものを借りて運びました。

得られた効果

ボランティアさんとの絆ができました。マラソンクラブやライオンズクラブの方々がよく助けてくださいましたが、ごま畑をきっかけに他の行事でもお手伝いして下さったり営業しておられるお店にこちらの農場の野菜を仕入れて下さったり関係が深まりました。今後もできるだけ多くの方とつながって、障がいのある人達と接してもらい、理解の輪を広げていけたらと思います。

問題点

7 月 8 月炎天下での除草作業が利用者にとってもきつかった。これまで耕作していなかった土地を借りたので、雑草の勢いが強くゴマが負けないよう、除草作業に追われました。

結果的に収量が少なかった。当初、商品にして 20kg の収穫量をめざしましたが、14kg でした。

次の課題

今、三重県ではゴマを県の特産品にしようと動いています。幸い四日市市には九鬼産業というゴマの加工会社があります。100 年以上の歴史のある地元産業です。99.9％外国産のゴマとのことで、貴重な国産ゴマの収量を増やすため、私どものような小規模な畑にも社員さんが指導やお手伝いに来て下さいました。農福連携が叫ばれる中、農福商工の連携が可能なのではないかと感じています。障がいのある人達の働きが、必要とされる社会の仕組の中にしっかりと位置付けられることを目標に、来年度もしっかりとり組みたいと思います。

創意工夫を重ね、収穫量を増やし、国産ゴマの増産に寄与できるよう、又、利用者の工賃アップがはかれるよう周囲の方達の力をお借りしながらがんばります。

特定非営利活動法人えん

http://www.npoen.com/

【所在地】　三重県伊賀市

【対象者】　精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、内部障がい者、若年無業者

【日常の活動】

- 就労継続支援 B 型事業所　3 か所の農場で、水耕栽培を通した自立支援を行う。
- 就労移行支援事業所　伊賀農場で、水耕栽培を通した就労移行支援を行う。上記の B 型より、作業時間や内容が実戦的なものになる。
- レクリエーション　月に一度、土日を利用して食事会や施設外活動等を行う。
- 若年無業者就労体験事業　若年無業者に対して水耕栽培等を通した就労支援を行う。
- 生活困窮者中間的就労支援事業　生活困窮者に対して水耕栽培等を通した就労支援を行う。
- 学校連携事業　小学校、適応指導教室、特別支援学校等と連携し、共同授業を行う。

「新規ゴマ栽培にかかる環境整備事業」

実施内容

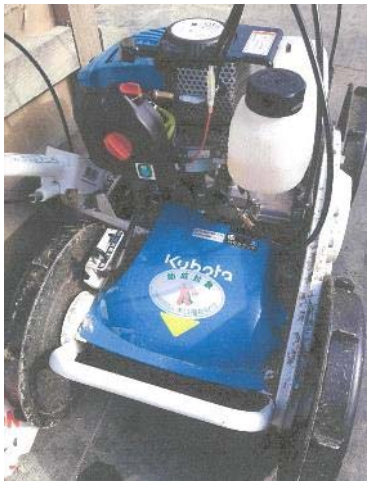
【助成額】20 万円

本事業の目的は、作業の効率化による利用者工賃の向上です。農作業のプロセスは多岐に渡り、個々の段階で作業効率を改善できれば、全体的な生産性を強化できます。その結果、野菜の売上が増加すれば、利用者工賃を今よりも更に向上できると考えています。そのために、申請した助成金によって、平成 28 年 11 月 27 日に以下 3 種類の機材を購入しました。

①クボタ　自走式草刈機×1 台
これまでは、一般的な刈払い機のみで広大な土地の除草作業を行っておりました。重労働な上に、機材を使用できる人材が限られるため、雑草のピークとなる真夏には少人数に負担が集中します。疲労の蓄積や休憩の頻度増で、全体的な作業効率も悪化しがちでした。今回購入した自走式草刈機であれば、重い機械を常に抱えている必要がないため、体への負担が格段に軽くなります。実際に使ってみましたが、長時間の作業でも休憩を必要としませんでした。特に繁忙期となる夏場には、大きな効果が期待できます。

②リョービ　高圧洗浄機×1 台
水耕栽培は、収穫を終えた栽培パネルを洗浄して、何度も再利用します。この洗浄が不十分だと生育不良のリスクが高まります。現状、ホースの水をかけ流して仕上げていますが、水圧が弱く作業時間がかかる上に洗い残しも散見されました。購入した高圧洗浄機を使ってみましたが、汚れを流すというより吹き飛ばす感覚で、非常に強力でした。まだ安全な運用方法を思案中ですが、活用すれば作業時間の短縮と仕上がりの改善に繋がります。

③寺田　揚水ポンプ×2 台
当農場では、タンクに貯めた雨水を栽培プラントにポンプで注水して利用しています。しかし、従来のポンプでは出力が弱くトン単位の水を移動するには丸 1 日かかることもあります。水がなければ定植作業ができないため、作業が翌日に持ち越されるなど非効率的でした。
今回購入したポンプは、従来より出力が倍以上強く、これまで日を跨いでいた注水作業が半日で完了できるようになりました。
テンポよく作業を提供できるだけでなく、野菜の生育サイクルをプラント単位で短縮できるため、生産効率の向上も見込まれます。



得られた効果

これまで、事業所の作業で使用する機械や道具は、ほぼ常に同じ物を使い続けてきました。これには、導入コストを抑え、作業方法の指導や伝承等の面で効率的というメリットがあります。しかし、単一の技術や方法しか修得できないというデメリットもありました。

新しい機材を使うことで、同じ「草を刈る」「パネルを洗う」「水を送る」という作業でも、道具や方法に様々な選択肢があること、それによって成果も変わるということを、作業を通して体感してもらえます。

また、多様な機材の使用方法を習得することで、一般就労に向けて使える経験を、一つでも多く積んでもらうことを期待しています。直接的に就労先で使われない技術であっても、類似した機材の使用や柔軟な発想に役立てることができれば、その経験は一生ものの武器になりうるからです。

今回購入した高圧洗浄機を見て、「これ、昔の職場で使ったことあります！」という利用者がいました。当時の様子を得意げに語る様子が印象的で、経験はその後の自信に繋がる大切な要素であると再認識しました。

問題点

特になし

次の課題

今回購入した機材は、どれも作業効率の向上が狙いであるため、従来使っていたものより高性能、高出力です。当然、価格は高価であり、誤った使い方で破損させれば大損害です。しかし、それ以上に重要なのが、安全な運用方法をいかに定着させるかです。例えば高圧洗浄機は非常に便利ですが、ふざけて使用すれば凶器になりかねません。ただ、危険だから使わせないのではなく、危険であることを理解してもらい、正しく安全に使ってもらうことが大切だと考えています。理解度には個人差があり、安全を守り続けるためにはどう指導していけばよいか、現時点で模索中の段階です。

効率化と安全性のバランスをどこで妥協するか、そこで支援者はどうあるべきか、今後の課題であり続けると思います。

特定非営利活動法人じゅえる　生活介護事業所オランジュ

【所在地】　大阪府枚方市　　【対象者】　知的障がい者

【日常の活動】

生活介護事業
・事業所オリジナルのペーパーラックの作成、販売　・地域の電気屋さんのチラシのポスティング請け負い
・福祉バザー参加　・レクリエーション（地域の音楽サークルさんの演奏会など）
・一泊旅行

「利用者作業場の環境整備のためのエアコンの購入設置」

実施内容

【助成額】27 万円

日立パッケージエアコン一式　一台購入

得られた効果

11 月末に事業所 HP にて今回の助成金事業を紹介予定。
それにより本来の目的である「利用者の作業環境改善」以外に
外部団体様（木口福祉財団様）からの事業評価をもって、
事業所の取り組みや積極的情報公開の必要性を障がい福祉業界に示せた。

問題点　特になし

次の課題　なし

株式会社ＭＴＩジャパン　ＭＴＩソーシャルワークス

http://fukusi.jpn.com/mtisocial/

【所在地】　兵庫県神戸市東灘区　　【対象者】　肢体障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障がい者自立支援法に基づく、就労継続支援A型・B型事業の実施
●A型作業内容
・パソコンを使ったデータ入力、システム開発、HP作成、ゲーム開発など　・パンフレットやフライヤー、WEBサイトのデザイン　・商品やイベントなどの企画、立案など　・化粧品販売サイト、WEBショップ運営
●B型事業内容
・A型事業の補助全般　・商品検品、梱包、発送業務　・パンフレット折り・袋詰め作業
・在庫管理データ入力・パンフレット発送先一覧データ入力
生きがいのある働く場の提供、日中活動を提供し支援します。障がい者に就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障害福祉サービスを提供します。当社の強みであるビジネス企画ノウハウとIT技術を導入し、単純作業のみならず障がい者の障がい者による障がい者の為のサービスを、障がい者が生み出す事業を展開しています。

●権利擁護
従事者に対し、権利擁護支援者養成研修の受講を促し、今後PASネット（権利擁護支援ネットワーク）への登録を行う等、市民後見システムの参画に向けての活動をすすめています。
●その他（見守り支援事業）
人権担当弁護士、福祉専門社労士、社会福祉協議会、監事等、各方面の専門家を顧問に迎え親族による介助者の方との生活が困難になった場合に、任意後見人制度や成年後見人制度へのスムーズな移行が可能になるように、移行システムを確立すべく活動をすすめています。
●就労支援
NPOなど就労支援機関からの依頼に基づき、無償にて就労訓練生を受入れています。将来の就労に向け、実践的な訓練を行っています。

「宅配弁当事業による新規事業所開所に伴う弁当配達用車両の購入」

実施内容

【助成額】100 万円

障がい者の方の就労の選択肢を増やし、更に多様な技術習得の機会の提供を実施するために新たな取り組みの事業所を新設致しました。
当該事業所の業務は、障壁が低く競争の激化もあり、更に利益率が低く、将来的に工賃向上を目指すには限界があるとの見方から、一般的な弁当と比べ、高付加価値のある弁当の製造、販売、宅配を手掛けます。
数ではなく質を重視することで、障がい者の方でも対応可能な食数で、高付加価値のある弁当に限定し、利益を生む仕組みを作りました。
徹底した食材のこだわりを仕入管理により、他弁当店との商品の差別化を図るとともに無料にて宅配することで他弁当店とのサービスの差別化を図っています。
業務としては、調理・盛り付け・配達準備・配達・清掃片付け・店舗運営・店舗サイト構築運用・弁当オーダー表デザイン印刷・チラシ配布等、障がいの特性に応じて様々な業務を担当して頂く事が可能な事業です。
また希望や将来設計に応じて、すべての店舗運営ノウハウを伝授し、障がい者の方が独立運営される事も可能な事業です。
・主な個配達先（個人・法人含む）　阪神今津～阪神芦屋周辺、六甲アイランド地区
・特別注文先　障がい者施設（御影にじのかけ橋様）（芦屋市みどり地域生活支援センター様）
（西宮社会福祉協議会青葉園様）（MTIソーシャルワークス様）
六甲アイランド老人会様

得られた効果

障がい者の方の働く場の提供及び工賃向上を本来の目的としていましたが、安心安全で新鮮な食材及び一つ一つ手作りにこだわった事により、障がい者施設や老人会等、当初のターゲット層以外からの大量注文があり、障がい者の方や老人の方で体調に気を遣われる方々の体調管理及び食事療法等への貢献も感じています。
また独居老人等、外出困難な世帯からの注文も多く、健康維持や見守り等の一助を担える事にさらなる意義を感じます。
またイベントで使いたいという要望もあり、おいしいお弁当でイベントが盛り上がった等、当事業所の弁当を通じて、皆様の活動をもりあげられている事も嬉しく感じています。
それは就労を目的として来られた障がい者の方々にとっても、自身の就労意義に繋がり、就労意欲に繋がる事であり、生きがいのある生活を提供できる事は、非常に意義深いと感じでいます。

問題点

特になし

次の課題

工賃向上を目指す事は、時間あたりの生産性で高品質化を高める事が必須であり、自然に利用者様への負荷も大きくなります。統合失調症で多極性障がいの方などは、特に体調の変化が激しく宇、若干の体力面・精神面の負荷でも症状の重症化を招きます。工賃向上と障がいの特性へのバランスを取る事が、これまで以上に難しくなってきており、重度の方に適正した働く場の提供と工賃向上の仕組み作りを、いわば相反する課題を乗り越える事が必要であると感じています。その為に既存の人員や取り組みで、この課題を克服するのは並大抵ではなく、発想の転換等で新たな市場の開拓を行い、高利益率商品の開発が更に重要になると思っています。
今回の事業においても、新たな仕組みづくりにより事業を展開していますが、広報活動や作業の効率化等ひとつひとつ新たな取り組みにおける検証を繰り返して、改善・拡大の必要性があると思っています。(例:やみくもに配達先を拡大してしまうと配達の効率が悪くなるが、制限をかけすぎると弁当製造の技術が上がらず売上も低迷することとなること等)

特定非営利活動法人ラーフ・ウッド福祉会

【所在地】　兵庫県姫路市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援 B 型･生活介護「ラーフ･ウッド」、就労継続支援 B 型･生活介護「ラーフの森」、居宅介護･行動支援･同行援護･移動支援（地域生活事業）「ラーフ･ケア」、共同生活援助事業「ラーフの郷」の運営

■手話事業（1か月に１回）第3土曜日　当施設内において聴覚障がい者、手話に興味のある方が集い2時間程度、手話での会話を楽しみながら手話の文化の向上に取り組んでいる。当施設内で、第2日曜日、9:00～11:00「ふれあい喫茶」を開催している。100円のモーニングサービスを提供し、地域の方の憩いの場として提供している。

「障がい者を支援する取り組みの環境整備に必要なビニールハウス一式」

実施内容

【助成額】80 万円

農業用ビニールハウスを作り、様々な苗作りやミニトマト等を生産する。

得られた効果

現在の日本の農業の担い手不足に貢献することが出来る。また、食の安全や障がい者の労働の場を提供することができる。

問題点

特になし

次の課題

特に大きな課題はありませんが、農業の技術を向上するために勉強、研究をさらに深めていく必要があること。

特定非営利活動法人尼崎障害者センター
地域活動支援センターパソコン工房チャレンジ

http://bcbweb.bai.ne.jp/challengeama/

【所在地】 兵庫県尼崎市　　【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

①一般就労支援
企業の事務員に必要な文書作成・差し込み印刷や基本的な表計算・グラフなどの Word・Excel の初級・中級程度の学習を支援した上で、採用時の面接試験で少しでも有利になるように、パソコン検定や MOS 試験などのコンピューター系の資格取得についても必要に応じて、助言指導を行っている。

②工房内就労支援
就労する意欲があって、なかなか一般的な就労に結び付くことが困難な所員に対して、Word・Excel などの基本的なパソコン技術や知識を指導した上でポストカードやカレンダーのオリジナル自主製品の制作やホームページ作成業務などの工賃仕事に必要なイラストレーター等のグラフィックソフトやホームページ制作のパソコン技術の指導も行っている。自主製品の制作やホームページの作成業務を担っていくことで、生きがいや工賃につながるように支援したり、製品の立案・開発・制作・販売の一連の過程を踏むことにより、社会の流通の仕組みが身に付くように指導を行っている。

③パソコン学習支援
パソコン初心者及びパソコンを生涯学習として取り組む所員に対して、ワンツーマンでの指導を基本に Word・Excel の基本的な操作方法やインターネットの活用方法やメールの送受信の方法、年賀状の作成、家計簿の作成など日々の生活の中で役立つパソコン技術を実践形式で指導している。

「重度障がい者における工賃アップのための機器整備事業」

実施内容

【助成額】32 万円

■11 月～2 月

・プリンター設置場所の検討

当初事業計画では、日々研修・作業時用に使用している木製の長机の片隅に置く計画で、実際に段ボールで実寸サイズの模型を作り、議論していましたが、当工房の内装工事を施工して頂いた工務店の方に「100kgを超える業務用のプリンターを木製の机に置くこと自体無理がある」との指摘を受け「200kgまでの耐久性があるキャスター付きのプリンター専用の台座」を作成してもらうことになりました。

2 月プリンター専用の台座の作成・取り付け工事・来年度のオリジナル自主製品の販売に向けて試作品の製作（当工房のパンフレット・2017 年度の A3 サイズの 1 枚もののカレンダー）

3 月 16 日にプリンターの導入

・試作品の試し印刷

①当工房のパンフレット

当工房のパンフレットについては、開所当初からイラストレーターなどのアドビー系のソフトを使って作成していましたが、インクジェットのプリンターや他社のビジネス用のレーザープリンターで印刷すると、写真画像がぼやけて印刷されたり、テキスト部分も設定している本来のフォントが持つ丸みなどの特徴が反映されずに印刷されていました。新しく導入した沖社のレーザープリンターは、一般の印刷会社や製本会社でも使用されているほどの高性能なプリンターなので、写真画像も鮮明にくっきり印刷されたり、テキスト部分も本来のフォントが持つ字体の特徴を崩さずに印刷することがげきました。

②2017 年度の A3 カレンダーの試作品

今年の年末のカレンダーの販売に向けて、試作品として、A3 用紙のサイズで今年度の一枚もののカレンダーを作り、印刷してみましたが、インクジェットや他社のビジネス用のレーザープリンターでは「まるでキャンパスの上に絵の具で色を載せた」ように背景色のプリンターは、細かいところまで精密に印刷されるので、思い通りの色合いやイメージで印刷することができ、外部の印刷会社に出していた時と同じレベルな仕上がり具合で仕上がることが出来て、喜んでおります。

得られた効果

今回、本事業の最終目標の当工房のオリジナルのカレンダーや和紙の便せんなどの新たなオリジナル自主製品を制作・販売して、実際「重度障がい者の工賃アップにつなげる段階」までいかなかったが、工房近くの酒屋や市役所から受注を請けた名刺を今回、新たに導入した沖社のレーザープリンターで印刷したら、「他の印刷会社に負けないほどの色合いや精度」で印刷することができ「こんな品質が良い名刺を安い価格で印刷してもらえるなら、これからパンフレット工房でお願いしたい」と喜んでもらうことができました。地道な作業になっていくとは、思いますが私たちスタッフ・所員が、プリンターの機能や Photshop イラストレーターなどのソフトをしっかり使いこなしていき、地域の方や市役所の方々からの名刺や年賀状などの注文を格安で請け負って行くことで障がい者が地域で役割を持つことが出来るのではないかと期待しています。またプリンター導入後、試作品として今年度の A3 用紙サイズの一枚物のカレンダーや当工房のパンフレットをスタッフが作成し、実際プリンターを使って印刷することをオリジナル自主製品作りに関わっている所員に見せることが出来「業務用のレーザー・プリンターなら、こんな色鮮やかに印刷する事が出来るの？私も頑張ってこんな印刷物を作ることが出来るよう頑張らないと」と所員自身の日々の研修意欲の向上にも繋がる事が出来ました。

問題点

特になし

次の課題

今回、本事業の最終目標の当工房のオリジナルデザインなカレンダーや和紙の便せんなどの新たなオリジナル自主製品を制作・販売して、実際「重度障がい者の工賃アップにつなげる段階」までいかなかったので、今年度はこの時期からしっかり、年末のカレンダーの売り出しに向けて制作に取り組み、今回の事業期間内に果たすことが出来なかった目標を果たしていきたく思っています。また、今回導入した沖社の業務仕様のレーザープリンターは、既存の家庭用のレーザープリンターや他社のレーザープリンターと異なり、印刷時に色のむらなどなく、イメージ通りに印刷されたり、A3 用紙や光沢紙、厚紙の多様なサイズや紙質の用紙に印刷することが出来る優れたプリンターなので一日でも早く使いこなせるように、研修に励むと共に新たなオリジナル自主製品を一つでも多く手がけていきたいと考えています。

一般社団法人ひなせ 地域活動支援センターひなせの家

http://www.hinase.biz/

【所在地】 兵庫県尼崎市　　【対象者】 肢体障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■地域活動支援センターひなせの家を運営し、主に精神障がい者の地域生活支援を展開する。具体的には生活活動（内職）の提供や創作活動（さおり織り等）の提供を行う。

「ひなせの家ものづくり部」

実施内容

【助成額】47 万円

ポーチ，巾着袋、カバン等を作成し販売するため、ミシン、テーブル、イス、その他の縫製道具を使用。平成 28 年 12 月 9 日現在では、見本品作りにとどまっているが、今後、作品を更に絞り販路開拓し利用者の工賃に反映させる計画である。

得られた効果

ものづくり事業に参加されている方は勿論のこと、ものづくり事業に参加されていない方が、本事業を日々見学し、他の活動（作業やレク）への参加が増えたり、事業所内のコミュニティが活性化している方向にある。

問題点

特になし

次の課題

障がい程度別にできるものづくり、できないものづくりがあり、並行して参加できる人、できない人がわかれたこと。参加したくない人（苦手な人）を今後どのように声かけと環境整備をして、モチベーションを上げ参加につなげていくかが課題である。

ひょうご失語症者の会

【所在地】　兵庫県尼崎市　　【対象者】　言語障がい者

【日常の活動】

約2ヶ月に1回のペースで交流会を行っております。

平成27年度の活動は

•5月:音楽療法、パターゴルフ •7月:紙飛行機ゲーム、サックスと歌の音楽

•9月:スポンジツリーゲーム　　•10月:三田市で開催されたゆめひろば交流会に参加

•11月:ひょうご失語症者の会交流会を開催。兵庫県失語症者の家族会主催の運動会へ参加。

•3月:絵手紙

「第３１回日本失語症協議会全国大会インひょうご」

実施内容

【助成額】100 万円

日時:平成 28 年 10 月 9 日(日)

大会 10:00～16:30　懇親会 17:30～20:00

対象者:言語障がい者

内容:体験発表•シンポジュウム•講演•ステージ発表など

得られた効果

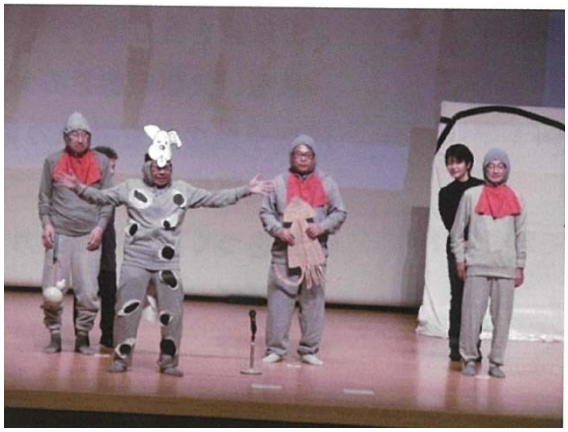
失語症についての社会的啓蒙がはかれた。
言語障がい者自身及び家族に新しい情報告知•提供ができた。

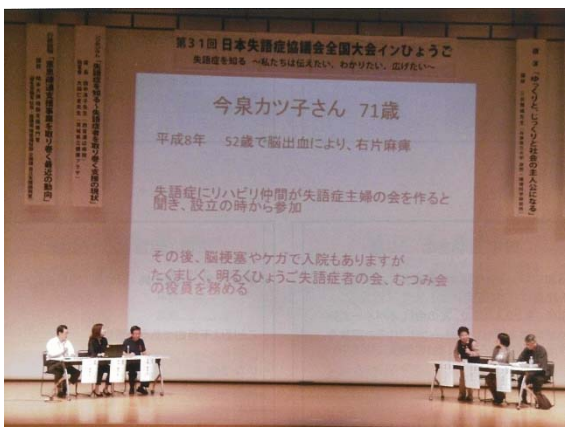
問題点

特になし

次の課題

失語症という障がいの認知はまだまだ高いとは言えず、在宅でひっそりと暮らしている方も多くいます。失語者自身も外へ出かけること、社会全体で言語•コミュニケーション障がい者に対する意識を高め、いろいろな人が明るく暮らしていけるように活動を広げていく必然性を感じました。





特定非営利活動法人支援の会ひまわり

http://himawari.uh-oh.jp/

【所在地】 兵庫県西宮市　　【対象者】 透析患者

【日常の活動】
訪問介護として、福祉有償運送では送迎の難しい高齢で歩行困難な透析患者さんの、週3回の病院往復の介護保険での乗降介助を中心に運営している。一般の介護タクシーの運賃の半額程度の料金を設定しており、患者さんの経済的負担をできうる限り少なくしている。今後の乗降介助と共に、身体介助、生活援助にも拡大して、身体の介助と共に、心の支えにもなれるように気配りを心がける。

「透析患者さんを乗降介助にて送迎する軽車イス自動車の購入」

実施内容

【助成額】100 万円

要介護で高齢の透析患者さんの自宅から治療を受ける病院迄の送迎を実施しました。透析患者さんは病院で治療を受ける為、週に3回病院に行き1回約4時間の透析治療を行うことが必要です。その為の歩行困難な患者さんで要介護の方の送迎を介護資格を持ったドライバーが介助をしながら朝自宅より病院の透析室のベッド迄と午後病院のベッドから自宅の玄関内迄送り届けています。現在、月水金4名火木土3名の患者さんを送迎しています。日曜日以外、週6日間休むことなく実施しています。

得られた効果

今回の事業は、高齢で要介護の透析患者さんの通院送迎支援ですが、この様な高齢で介護の必要な方の移動の問題は、今後増々増加してくるので、大きな社会問題と思われます。移動は、通院の他、買物、会合への出席、身近なレジャー等も必要なことです。

問題点

送迎患者さんの体調の変化により、送迎の帰りの便の予定時刻がよく変更になり、送迎に支障が多く発生、人によっては30分以上の待ち時間が発生しドライバーの拘束時間が延長してかなり負担となった。

次の課題

支援の会ひまわりも、今後増加する要介護透析患者さんの送迎に対応する為、車両の増車、介護ドライバーの養成、対象病院の拡大等早急に計画・実施出来る体制作りが不可欠です。送迎の効率は、患者さんの状態が悪化していく中、悪くなっていきますが、ひまわりの考え方としては、効率ではなく効果（患者さん一人一人の方に役立っているか）を優先したいと考えています。

特定非営利活動法人ハートフル 手作り工房ふるふる

http://npo-heartful.org

【所在地】 兵庫県西宮市　　【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

●生産活動 ①弁当製造・販売 ②焼き菓子製造・販売 ③手工芸品製造・販売
④委託作業（食品製造・加工、除草作業）

●各種プログラム
①SST ②就労準備プログラム ③パソコン教室・パソコンスキルアップ講座④ハリ・マッサージ治療
⑤音楽療法 ⑥絵画サークル ⑦ヨガ教室

●当事者企画余暇活動（過去の例:食べ歩きツアー、水族館、バッティングセンター等）

「手づくり弁当配達のための一人乗り超小型 EV の購入」

実施内容

【助成額】74 万円

当施設では「手づくり」にこだわり、野菜を豊富に使用した日替わり弁当を製造しており、メニュー決めから下ごしらえ、製造、盛り付け、配達の工程を利用者、スタッフ、ボランティアで行っている。
手作りにこだわった当施設の弁当を食べたいという市内の知的障がい者通所施設へ向けて昼食用に弁当を提供することになったが、まとまった注文数（25 食前後）があり、また通常の配達エリアとは逆に所在しているため、保有車両が少なく職員の自家用車を使用しながらの配達であった。本来ならば配達は難しい状況であり、依頼を断るべきであったのだが、その背景には当該施設へは平成 26 年に一度弁当を提供していたものの、先方の事情により更新がなされずにいたなか、「やはり“ふるふる”のお弁当が食べたい以前よりも多くの者が希望している」という思いに応えた事情があり、その思いを叶えるために職員が自家用車の使用を積極的に申し出たとうい経緯があった。職員の心理的、経済的負担を解決するため
トヨタ自動車製一人乗り超小型 EV「COMS」を助成金にて一台購入させて頂き、月～金曜日の昼食時の弁当配達の際に職員が使用している。

得られた効果

自家用車でないという安心感を得ることができ、利用者の工賃向上のために配達エリアを広げることも臆する事なく考えられるようになった。また保有車両が 2 台になったため雨天時に遅れがちだった配達が以前よりも早くなった。さらに珍しい車両が目を引き店舗前に駐車している車両をみて子供からお年寄りまでが立ち寄られ声をかけられることが増え、地域の方とのコミュニケーションツールの一つとなっている。他の福祉施設からも車両の経費や利便性について尋ねられる事も多く、超小型 EV の宣伝に繋がっている。

問題点

特になし

次の課題

配達エリアが広がったことで有難い事に配達を希望される先が増え施設としてもその声に応えているが、忙しさが増すことで体調に不安を覚える利用者もあり、双方の思いに応えるための作業の効率化を始め様々な工夫を図り、利用者の身体的、精神的負担の軽減に努めたい。

特定非営利活動法人アイ・サポートセンター

【所在地】 兵庫県加古川市　　【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

1. 視覚障害者福祉サービス事業（同行援護事業）視覚障がい者が社会参加、余暇活動等の外出時にサービス提供者を派遣することをメインの事業としている。更に居宅介護事業では、ホームヘルパーを派遣して日常生活の支援をしている
2. 視覚障がい者と地域住民との交流事業
   ■講演会 ■パソコンの寺子屋 ■一泊研修旅行 ■秋のイベント又は視覚障がい者の生活用具展示会　等

「点字プリンターの購入」

実施内容

【助成額】81万円

当センターの総会などの資料作成及び案内状その他、
視覚障がい者の連絡等の作成に点字プリンター
（エベレスト V4 スタンダード）を購入。

得られた効果　点字資料の作成、視覚障がい者への情報提供

問題点　特になし

次の課題　点字プリンターを活用して、広く視覚障がい者に情報の提供をすることを課題とする。

仙台西多賀 ENJOY LIFE STATION

【所在地】 宮城県仙台市太白区　　【対象者】 筋ジストロフィー患者

【日常の活動】

■当事者を中心に Facebook の活動にて、それぞれの悩み相談や生活の知恵や工夫などの情報交換や定期的なオフ会の企画開催

■QOL 向上のための各種研修会の企画・運営

「難病患者に対する社会活動支援と QOL 向上を見据えた研修会実施」

実施内容

【助成額】48 万円

■難病患者に対する社会活動支援と QOL 向上を見据えた研修会

第1回　就労支援研修会　平成 29 年 2 月 27 日(月)　17:30～20:30

講師:アビリティーズジャスコ株式会社 就労支援事業部　長岡 麻人 氏

参加者:医師、看護師、児童指導員、支援学校教員、社会福祉士等 15 名

内容:講義「障害者雇用の概況」　実践「ソーシャルスキルトレーニング」

詳細:障がい者の就労支援に関わる基礎知識として、障がい者雇用や特例子会社制度の概況、障害福祉サービスに基づいた就労支援の現状や実際のサービス提供の内容について講義いただき、その後、実際に訓練で行っているソーシャルスキルトレーニング(SST)を実践した。

参加者からは、「対象の人を様々な方向からアプローチする大切さがわかった。」「一社会人として、自分のスキルアップにもつながるトレーニングだと感じた。」「今まで支援者側の視点でしか就労支援を捉えていなかった。」「うまくいかない理由を無意識に本人の能力のせいだから仕方ないと思ってしまっていた。」など多くの気づき、反省の声が聞かれた。支援者の働きかけ、環境調整、必要なトレーニング、さまざまな支援を受ければ障がいを抱えた方々の就労の可能性が広がることに気づかされ、また少しずつ、一人づつでも可能性が広げられるよう、まずは支援者側が思いをひとつにし、支援を提供していく必要があると感じた。

第 2 回　障害者のためのポジショニング研修会　平成 29 年 3 月 25 日(土)　10:30～12:30

講師:理学療法士／フェルデンクライス・プラクティショナー　伊藤 亮子 氏

参加者:看護師、理学療法士、作業療法士、ヘルパー、ケアマネージャー、相談支援専門員、当事者、家族等　79 名

内容:講義・実演「寝る姿勢による身体への影響(睡眠確保、拘縮、褥そう予防)について」

詳細:ポジショニングの基本的な考え方、姿勢のメカニズム、道具(枕、クッション、除圧マット等)の使い方などを途中に実技も交えながら講義をしていただいた。介護の必要度とポジショニングの重要度は比例しており、支援者がそれを理解して関わることで身体的な負担の軽減が期待できるという内容であった。通常人は無意識に重力のもとでバランスを取っており、それは寝ているときも同様である。身体の部位それぞれに重さがあり、その位置を少し変えるだけで、重さのかかり方、動きやすさが変化する。筋力低下、麻痺等により自身でそれを調整できない場合、支援者側がその対象者の身体を空間の中で捉え、姿勢の管理を行うことにより、褥そうや変形など二次的な問題を防げるとのことであった。

第 3 回　呼吸ケアに関わる多職種交流会　平成 29 年 3 月 25 日(土)　15:45～16:30

講師:独立行政法人国立病院機構八雲病院 小児科診療部長　石川 悠加 先生

参加者:看護師、理学療法士、ヘルパー、当事者、家族等　14 名

内容:呼吸器装着患者に対する医療的ケア、日常生活支援に関する情報共有

詳細:当日 14:00～15:30 に呼吸ケアの研修会が開催された。神経筋疾患患者に対する呼吸ケアの権威である石川悠加先生が講師で仙台にいらっしゃるとのことで、八雲病院での取り組みや在宅患者への支援の必要性、導入のタイミング等についての情報交換会を行った。どのような効果が期待できるか、リスクが軽減できるかなど、後々の医療ケアの負担を軽減できたり、より長く生活の質をかくほできたり、本人、家族だけではなく支援者にとってもメリットが大きいとお話があり、そのためには神経筋疾患に関わる医療関係者、福祉関係者、当時ⓨ差に幅広く呼吸ケアの有用性を理解してもらいたいと伝えられていた。

■クリスマス会(オフ会)

平成 28 年 12 月 10 日(土)

参加者:当事者、家族、看護師、ヘルパー、ボランティア、団体スタッフ等 30 名

内容:障がい、病気を抱えて病院、在宅で生活をする当事者とその方々を支援している関係職種を交えてのクリスマス会を開催。

詳細:企画や準備は当事者が中心となり進めた。普段は食べられないケータリングのお料理やお寿司、特大サイズのケーキなどを食べたり、コンサートをしたり、「絵スチャーゲーム」というゲームをし、景品、罰ゲームも準備した。場所が教会であったため、聖書の話や賛美歌の合唱など、普段は触れる機会のないことも体験することができた。

得られた効果

参加者の皆様の疾患の理解、知識が深まり本来の目的は概ね達成されたことと自負していますが、今季あの研修会が「顔の見える連携」の一助にもなったように感じております。研修会の前後、支援者間、支援者と当事者、当事者間で名刺交換や近状報告をする場面が多く見受けられ、当事者についての実に管ふぇれんすた困っている事例についての相談、情報提供などが行われていました。筋ジストロフィーも然り、難病といわれている疾患は患者数が少ない上に、その症状がさまざまなで、慣例的に支援を提供することが難しい場合が多く、また、在宅で療養している患者もすくないことから、在宅患者の支援者の方々は試行錯誤を重ねながら大変なご努力をいただいている現状です。同じフィールドで働く同志と顔を合わせ、悩みを共有し、指導し合うことにより、その士気を高められたことが今回の研修では大きな波及効果だったように感じております。

問題点

特になし

次の課題

より多くの支援者が参加できるよう、日時をずらして開催したり、地方で開催する必要もあると考えるが、講師のスケジュールの確保、予算、当団体のスタッフ不足により、難しい。県外から参加した方々からは「自分たちの地域でもやってほしい」という声が聞かれたため、他団体とも協力をして、有用な情報をより多くの人に届けられるような企画が必要である。

福島県自閉症協会

http://asj-fukushima.net/

【所在地】 福島県双葉郡富岡町　　【対象者】 自閉症児の親

【日常の活動】

■総会、保護者研修会、施設見学、夏休み親子研修会、療育援助セミナー、高機能自閉症・アスペルガー症候群ネットワーク会議、自閉症支援トレーニングセミナー等を実施するほか、関係機関への啓発・請願等の活動を行う。

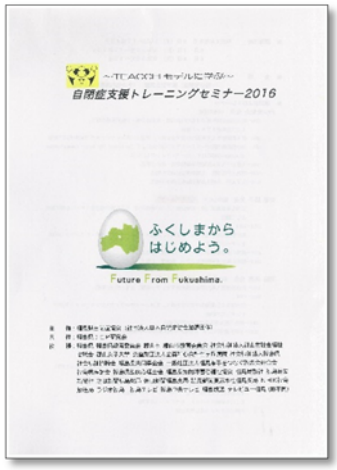
「自閉症支援トレーニングセミナー2016 の開催」

実施内容

【助成額】58 万円

本事業は、一般的な自閉症についての講演会とは異なり、当事者への直接支援を通して実践的に学ぶことができる 3 日間のセミナーである。本セミナーは、TEACCH プログラムをモデルとして、その理論や支援方法を学ぶものである。講師陣は、TEACCH プログラムを開発したアメリカ・ノースカロライナ大学において研修を受け、帰国後に TEACCH プログラムに基づいた支援を実践し、国内各地でトレーニングセミナーを開催している方々である。

内山登紀夫先生	大正大学心理社会学部臨床心理学教授
安部陽子先生	横浜市東部地域療育センター臨床心理士
諏訪利明先生	川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科准教授
中山清司先生	自閉症 e サービス代表



セミナーでは、当事者のアセスメントに基づいた支援目標の設定や療育セッションの準備やセッション後のカンファレンスを通して、理論を実践に応用する過程を体験的に学ぶことができた。参加者は、保育士、教員、福祉施設職員、心理士等、自閉症児者へのサービスを提供する専門職の方々だった。参加者が支援している対象者は、幼児から成人まで年齢の幅があり、生活・余暇・就労支援等内容が多彩なため、参加者は幼児・学童・青年の 3 グループに分かれ、年齢に応じた専門的具体的知識と技能を学んだ。

3 日間の研修内容は以下の通りである。

第 1 日目は、自閉症支援に関する基礎的な講義を行った。この講義は、トレーニングセミナーへの参加者とともに、保護者や支援者を対象とした「一般公開講座」として公開し、300 人弱の参加者を得た。具体的には、自閉症スペクトラムの認知特性やアセスメントの基本、実際の支援方法などの講義を行うと共に、日常生活や支援の現場での疑問や困っていることに対しての質疑の時間を設け、活発な議論を行い理解を深めることができた。

第 2～3 日目のセミナーでは、幼児期・学童期・青年期の自閉症児者の協力を得て、アセスメント、療育セッションの計画・準備、セッション準備、事後カンファレンスを通した、実践的なトレーニングを行った。また、セッションと並行してさらに詳しい講義も行い、理論と実践を繋げ理解を深めることができた。

得られた効果

本セミナーにおいては、幼児期・学童期・青年期の当事者に協力を依頼し、一人一人に合った支援について具体的に学ぶことができた。講師も受講生も初対面の協力当事者に対し、どのように準備しどのように関わるか、実際に行った支援をどのように評価し見直しをするかなど、実際的に考え体験することを重視した研修となった。

受講生は、普段の業務では出会えない領域や対象年齢の専門家同士が出会い、交流を深めることができた。また、本セミナーを開催するにあたり、福島県内の教育機関や支援機関において専門的に自閉症児者支援を行っている専門家団体が共催しスタッフとして参加しているため、スタッフや受講生間の交流を盛んに行われる。その効果として、セミナー終了後も顔の見える連携が行われている。今後も継続して「切れ目のない、一貫性のある支援」のために、職種、対象年齢、地域を超えた交流が盛んになることが期待できる。

過去の参加者の中には、医療・福祉・教育・保健の各分野で指導的立場となり活躍されている方がいる。また、過去の参加者に勧められて参加希望する方も多い。例年、参加希望者が定員を上回り参加者を選考し実施しているため、参加を希望しても参加できていない方もいる。本会としては、今後も本事業を継続することが、福島県の自閉症児者への支援向上に繋がると考えている。

問題点

特になし

次の課題

例年のことであるが、開催にあたり会場・スタッフ・予算の確保が難しい。

今回 8 回目の開催となった本セミナーであるが、今回までは県郡の福島市及び県の中央に位置する郡山市で行ってきた。しかし、福島県は広く他の地域での開催も求められていて、来年度は会津若松市で行う予定である。本セミナーは、ホールといくつかの教室・会議室を使用するため、その条件に合う会場探しから始めるが、1 年前から予約ができる会場が少なく、予約できるところは会場費が高いという問題があり、担当者は悩まされる。

本会は自閉症児者の保護者の団体であり、共催団体は支援機関職員であるため、3 日間スタッフとして参加することが負担になる場合がある。さらに専門的知識やスキルを要する仕事を担当することもあるため誰でもできる訳ではなく県内各地で開催するためには、地元スタッフの研修も必要になる。

福島県内には、適切な支援を受けることができず、困難さを抱えて生活している自閉症児者がまだ多くおり、本会としては今後も本セミナーを継続して開催したいと考えている。そのためには、関係機関と連携を図りながら会場を確保するとともに、スタッフとなり得る人材確保及び育成も進めていきたい。また、予算確保のため補助金申請を速やかに行うようにしたい。

特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターＡＣＴＩＰＳ

http://actips.jp/

【所在地】　千葉県市川市　　【対象者】　精神障がい者

【日常の活動】

■医療保険制度に基づく事業:訪問看護
■障害者総合支援法に基づく事業:計画相談支援、地域移行支援事業、地域定着支援事業の実施

「ＡＣＴおよび医療における包括型アウトリーチ研修（実践）」

実施内容

【助成額】41万円

本セミナーでは、アウトリーチ支援の概要や実践を知ることにとどまらず、関わりの中での「聴く・感じる・伝える」について体験するとともに、考えを深める機会を提供しました。
日本の精神保健医療の流れは病院から地域へと徐々に変化しています。とはいえ、支援者の多くは入院や薬物治療中心の支援になじみが深く、地域生活の実現をイメージできず戸惑っているように映ります。利用者主体の支援を行うアウトリーチ実践の根幹をなすのは、何といっても関わりの姿勢です。病院勤務を経て地域で働く人が大半で、支援観のパラダイムシフトや知識・ノウハウの再構築の必要性を痛感しています。シンポジウムでは、それぞれの立場から関わりの中での「聴く・感じる・伝える」を語って頂きます。後半のグループワークでは、オープンダイアローグにも取り入れられているリフレクティング・プロセスを体験し、多様な視点や対話的実践を体験する機会を提供しました。これまで多くの臨床家が体験してきている、問題解決志向型のグループワークや事例検討の形とは違うスタイルのため、はじめ戸惑いを感じた参加者もいたようですが、体験を通して「対話」のあり方をより深く知りたい、さらに体験からの学びを深めたいと感じる方も多かったようです。以下、クロージングでの参加者の発言やアンケートから抜粋です。
「こういうやり方でどう収拾するのかと疑問に思ったが、終わる頃には話題提供者が自分で気づきを得たり、こうしようと思うと言ったり、聴いてくれてうれしかったと言ったりして、リフレクティングをしている自分たちもなんでそうなったのかわからないけれど、とてもいい気分で終わったので、これいいなと思った。」
「自分はきまじめすぎるのだと気づいた。もっと体に感じることを大事にしたいと思った。」
「このグループワークをもっと重ねれば、もっと何かに気付けるような気がした。これからだというところで終わってしまう。次回は合宿で開催してもらいたい。」
「スキルではなく、会話の場づくりが大事なのだとわかった。リフレクティングでは、これはしない、ということがあるので、こんなこと言って大丈夫かと思ったり、難しさも感じたが、自分が言ったことが、話題提供者にとってひっかかることならまたコメントがあるし、なければそのまま流れていくということも新鮮だった。」
「聴き手として、リフレクティングチームの言ったことを取り上げなくてもよい自由があって、それが心地よかった。」
その他、クロージングでは各自の臨床現場での活用を前向きに検討したいとの発言も聞かれ、セミナーで体験したことを実践へとつなげていきやすい時間となったようです。
※「リフレクティング・チーム」とは、セラピストと観察者、そしてクライエントが互いに意見を反響させ、異なった循環を生み出すことで解決を図る技法です。…リフレクティング・プロセス（新装版）会話における会話と会話　からの抜粋
その手法を、本セミナーでは少人数グループで応用した形を取り入れました。事例提供者と聞き役（面接者）を決め、その場面を他の参加者が静かに観察し、その後、参加者がグループになってこのやりとりから感じたことを自由に話し合い、事例提供者と聞き役（面接者）がその話し合いを聞きます（リフレクティング）。そのリフレクティングをもとにさらに相互のやりとりを進めます。互いの相互作用が進む中で、事例提供者を含め、全員の連想が広がり、新しい発想や気づきが得られます。

得られた効果

•受講者の中に大学院生がいて、今回の研修参加を機に当法人の取り組みへの関心を強められ、ご自身の担当教員を通じて当法人での実習を希望されたこと。当方としましても、教育関係者にも関心をもってもらえるきっかけとなり、今後を担う学生たちに、“関わりのあり方”を考えてもらえる機会が提供できることをプラスに捉えております。
•精神保健福祉領域の現場で働かれている受講者が、本セミナーで学んだことをご自身の働かれている現場の職員たちとも共有したいと強く希望され、当法人職員にセミナー講師を依頼してきたこと。当方としましても、法人が培ってきている関わりの姿勢や対話的実践に関して、関心を持たれている方たちに伝達する機会がもて、日本各地での質のよい臨床が耕されるきっかけ作りになることを期待しております。

問題点

特になし

次の課題

受講者からは好評で今後の継続開催の希望が多く出ており、本事業のようなセミナー開催を法人としても意味ある活動として認識しています。しかし、臨床活動を主に、活動を展開している小規模な法人ゆえ、今後の事業展開・事業戦略を練り具体化していく作業と並行してのセミナー開催は、開催効果とマンパワーや収益面のバランスを考慮した際に、安全的な継続開催には課題が残ります。

公益財団法人日本ダウン症協会

http://www.jdss.or.jp

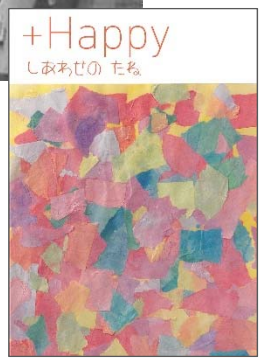
【所在地】　東京都豊島区　　【対象者】　ダウン症を含む知的障がい者、家族

【日常の活動】

余暇のための教室の紹介、また余暇を楽しむダウン症のある人たちを会報、ホームページで紹介しています。権利擁護を進めるために、省庁の委員会での発表、陳情などを行っています。
全国のダウン症のある人たちの就学、就職などの情報収集を大学などと共同で行っています。
毎年 3 月をダウン症啓発月間として、ダウン症のある人の写真と、キャッチコピー（平成 28 年度は、マイ・フレンド　マイ・コミュニティ　いっしょに笑おう！）のポスターを制作し、全国に配布・掲示しています。その他、ダウン症のある人たちの生活などを紹介し、ダウン症の啓蒙を差別のない社会、すべてのダウン症のある人たちが暮らしやすい社会の実現のために、様々な取り組みをしています。

「子育て手帳の作成と相談員の研修」

実施内容



【助成額】68 万円

事業①　全国相談員研修
7月2日（土）玉井邦夫代表理事・大正大学教授
「相談を受けるにあたっての心構え」
質疑応答
7月3日（日）京都（トライアングル代表）相談員　佐々木和子氏
「成人期の問題に関する事例発表」
相談員を 7 グループに分け、グループワーク
各グループの発表
総括　玉井邦夫代表理事

事業②　子育て手帳の作成
2015 年制作の子育て手帳「しあわせのたね」パイロット版の感想や意見を広く募集した。制作・企画担当者およびJDS担当者による「子育て手帳制作委員会」にて、パイロット版を読んだ、多くの読者からの、意見、感想、訂正、要望などを元に打ち合わせを行い改善点を洗い出し修正して、再編集を行った。
名古屋にて（企画立案グループの所在地）、制作委員会の直接会合を開催し、手帳の最終案を決定。デザイナー・編集者に依頼し、手帳デザインの制作を始める。限られた予算で、より多くの手帳を印刷するために、サイズ、紙質などについて印刷業者と相談し決定した。5000 部を印刷。
製作委員会にて、メール等も含め、手帳の配布先・配布方法について打ち合わせ、手帳を必要としている親御さんに効率的に届けるため、JDSの支部や相談員を通じて、地域の保健所等にPR、全国の子ども病院、ダウン症関連の医学学会などにもPRして親御さんに届ける。限られた部数の手帳をなるべく多くの親御さんに届けるため、チラシを作り活用する。また、母子手帳にも共通する内容もあることで、メディアに向けての広報活動も行う。

得られた効果

子育て手帳については、パイロット版配布以来ずっと、「完成版」の配布を求める声がJDSに多数寄せられていた。今回、完成版を制作し、その声に応えることができホッとしている。また、愛知県在住のJDS以外のダウン症親の会の若いお母さんグループと共同で手帳制作を行えたことも大きい。JDSは日本で唯一の、全国規模のダウン症支援組織だが、主力メンバーの高齢化もあり、若い世代への継承が急務となっている。今後も大きな組織として、こうした若いエネルギーやアイディアをバックアップしていきたい。

この手帳は、産婦さんが障がいのある子どもを授かった時に経験する、メンタル的な状況についてのサポートも含めた内容であり、文言一つにしても、手にする立場の方の環境をイメージして、制作スタッフの意見交換を行い作成した。
近年社会的な関心を集めている、出生前検査を受検する方にも参考になる内容であり、また妊娠中から活用するという意味では、まさしく母子手帳に同等する内容であると自負している。

問題点

①全国相談員研修
　大阪開催ができなかった。
②子育て手帳
　制作に時間がかかり、予定より配布が遅れた。（スタッフが都内に集中していないので、時間がかかる。）

次の課題

お子さんを授かったばかりの若い親御さんに育てるため、助成金をいただいて子育て手帳を 5000 部制作したが、全国の必要な方に届けるにはまだ不十分な数量と思われる。また、郵送料の負担もばかにならず、郵送料だけは利用者負担という方法を取ることになった。こうした方法をカバーするため、ネットからの手帳のダウンロードという方法で、直接届けられない方にも、手帳をご自分で印刷いただき、利用できるようにする予定だが、正体も継続的に配布を行っていくことが可能か、その方法については、まだ未定。

ゆめぱレット

【所在地】 愛知県豊田市　　【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

①とよた市民活動促進補助金「はじめの一歩」一年目「わたぼうしコンサート in とよた　～輝けいのち」
- ・オープニング/県立豊田高等特別支援学校音楽部演奏　・歌うボランティアによるコンサート
  障がいを持った人たちの日常生活の中から生まれた詩を歌にして会場の皆さんに届けるコンサート
- ・わたぼうし語り部塾塾生による語り
  障がいを持つ人だけが参加できるわたぼうし語り部塾で語り芸を学んだメンバーによる語り

②とよた市民活動促進補助金「はじめの一歩」二年目　ゆめぱレットわくわく映画会
- ・「かみさまとのやくそく～胎内記憶を語る子どもたち～」　生まれてくる命にはそれぞれ役目があり、世の中に役に立つことを喜びとし、願って生まれたことを子どもたちが教えてくれる
- ・ふり返りタイム　20 分程度の時間だったが、映画を見た素直な感想が途切れることなく発表してもらえたので、とても有意義な時間になった
- ・大門正幸先生のお話タイム「生まれ変わりの記憶が教えてくれる命のしくみ」
  死後の意識の存続、生まれ変わりなどの研究者という立場から研究の中で知り得た不思議な世界をテーマにした講演

③「ふらっとルーム」&「プチふらっと」　・オリジナル手作りパズルの考案と制作　・パズルの普及と体験の場つくり　・オルガニート（手回しオルゴール）の演奏＆体験　・手作りパイプオルガンの演奏＆体験　・お話の世界（大型紙芝居・大型絵本・語り）を提供

④「ゆめぱレット縁 JOY 計画」（豊田市育成会助成金）
- ・ゆめぱレット幸楽コース　企画会議・調理実習・日帰り研修・ダーツ大会参加など
- ・訪問コース　市立美山小学校・足助小学校にて「チェロと語りのコンサート」開催
- ・語ろう会　「演劇フェスティバルインちりゅう」にて 45 分公演

⑤地域のイベントに出演
- ・オリジナルパズルのブース出展　豊田市産業フェスティバル、梅坪台ふれあいまつりなど

「ゆめぱレットわくわく映画界 Vol.2＆活動記録誌「あゆみ」制作」

実施内容

【助成額】20 万円

［事業1］

①ゆめぱレットわくわく映画界「パーソナル・ソング」～奇跡の笑顔～

②プログラム

・オープニング

ありのまま合唱団によるコーラス（豊田市育成会）

「Let It Go」（ありのままで）　作詞・作曲/クリスティアン・アンダーソン、ロバート・ロペス

「花は咲く」　作詞/岩井俊二　作曲/菅野よう子

・映画界

「パーソナル・ソング～笑顔の奇跡～」

原題「Alive Inside」　2014 年/アメリカ/カラー/78 分」　監督・脚本・製作/マイケル・ロサト＝ベネット　音楽/イタール・シュール　出演/ダン・コーエン、オリバー・サックス、ポビー・マクファリーン

・ふりかえりタイム

司会者/釘宮順子さん　司会者の進行で会場全体の「ふりかえりタイム」発表者/7 名

・ラストソング「みんなで歌おう」　曲目/「思い出のアルバム」　作詞/増子とし　作曲/本多哲磨

［事業2］
ゆめぱレット活動記念誌　活動 5 年を超えて「キセキ」制作
①内容
・ゆめぱレット団体紹介　活動目的など
・活動紹介　「ふらっとルーム」、「縁 JOY 計画」（えんじょいぷらん）、映画会など
・寄稿文紹介
②仕様　A4 サイズ/カラー/32 ページ（表紙・裏表紙込）/マットコート紙
③部数　300 冊→色々な事情で 200 冊を補償され、合計 500 冊

得られた効果

・チケット販売のつまずきにより、お知らせの範囲を広げた。そのお陰で今まで知らなかった団体とのつながりができた。
・記念誌については思いかけず、表紙に印刷ミスがあったのでショックを受けたが、その部分を「メッセージカード」として使うことにした。1 冊ずつ手書きで、お礼を添えて関係者に渡すことができたので、とても喜んでいただけた。
・記念誌入稿前に誤字などを新しいメンバーにチェックしてもらった。そのおかげでゆめぱレットの歩みを知らなかったメンバーにも活動の歩みを知ってもらうことができた。
・記念誌の印刷ミスがあったので、補償として 200 冊納入が決まった。合計 500 冊の記念誌ができたので、今後の活動にも有効活用する余裕が生まれた。
・記念誌を作っていて感じたことは「記憶にとどめることの限界」だった。今年度も新しい企画が生まれているので、毎日毎日が「光陰矢のごとし」と過ぎているので、記録を残さないと何をしてきたのかがわからなくなってしまうという怖さを思い知った。
・記念誌のすごさ（存在感）は、5 年後、10 年後と年を重ねる中で重要さが増してくると思った。

問題点

・入場者数が予定数に及ばなかった。　・字幕スーパーが敬遠された。
・「チケットをすぐ下さい」という希望に応えられなかった。　・市民活動団体を束ねる活動センター主催の大きなイベントが重なってしまった。　・内容に興味を持ってもらうことが難しかった。

次の課題

今までもコンサートや映画会を開催してきたが、今年に限ってはとても困難なことが多かった気がする。集客においては市民活動センターの大きな事業と重なり、頼みにしていた方々にご来場いただけなかった。又、記念誌においてもまさかの印刷ミスに見舞われたことは本当に信じられなかった。
でも、それらの困難を「ピンチはチャンス」ととらえ、新しい出会いをいただき、又、ヒビが入るであろう人間関係が良い深いつながりになったことが私たちにとって一番素敵な経験になった。

社会福祉法人関西いのちの電話

https://kaindnew.com/

【所在地】　大阪府大阪市淀川区　　【対象者】　精神障がい者

【日常の活動】

1. 電話相談事業　自殺予防を中心に 24 時間体制で電話相談を受ける。
   ①1 ブース 1 台の電話機、4 ブースで活動。1 ブース 1 人担当。②相談者の掛けて来た電話を相談員が受け相談をする。③担当は相談員が予め担当予約した日、時間帯に行う。④活動体制、一日を 5 つの時間帯（A～E）に分けて行う。⑤相談員は 2 年間養成講座受講者で認定されたものとする。
2. 新規相談員養成事業
   ①電話相談員養成のため 2 年間、講座・実習を中心に行う。②1 年修了時仮認定。実習実施。2 年目終了時認定。③募集・広告・講師・スーパーバイザー手配を行う。
3. 相談員研修
   ①認定後 3 年間、同期勉強会を実施。②グループ研修、相談員は月 1 回グループ研修を受ける。
   ③その他、全体研修・SV 養成・フォローアップ等の研修あり。
4. 収益事業　事業運営に資するため収益事業を行う。
   ①バザー開催　毎月 11 月②チャリティーコンサート開催

「関西いのちの電話電話相談事業」

実施内容

【助成額】27 万円

長尾文雄氏（大阪女学院大学講師・関西いのちの電話養成講座講師）の著書、『寄り添い続けるためにいのちの電話に学ぶ　傾聴と共感』（全 195 頁）を発行。1,000 部　印刷・製本。
この本はいのちの電話の相談員として、いかに相談者に寄り添って聴くか、相談員が最も訴えたいことを感じ取り傾聴するためにはどうすればよいか、また相談員としての姿勢等についてわかりやすく導く教本のようなもの。
また電話相談員のみならず、一般市民にとっても、人の話を聴くということ、相手の立場や考えを尊重し、否定せずに肯定的に聴くことについて学ぶことができ、家族、知人との会話や職場等でのコミュニケーション能力の向上に役立つ本である。
2016 年 1 月～12 月の総受信件数、23,710 件のうち、16,073 件が精神障がい者からの電話（全体の 68％）という現状。精神障がい者の方々からの訴えをよりよく聴くためにも、「傾聴と共感」は優れたテキストである。
また相談員が個々に相談活動に困った時に開き、導かれ、永く活動を続けていくための一助となっている。

得られた効果

今回の事業を通して、精神障がい者以外の相談者への「共感的な傾聴」についてのスキルを高めることができた。
また、朝日新聞で取り上げられたことで、広く一般の方々への「いのちの電話」そのものについての広報ができ、私たちの活動への関心をいただけたと思われる。

問題点

特になし

次の課題

これまで当法人が発行者として著作を発行したことがなかったが、今回、「いのちの電話に学ぶ　傾聴と共感」を発行したことにより、内部の相談員の育成はもちろんのこと、外部の一般市民に向けての広報に役立った。また一般のかたがたにとっても、相談員になってボランティア活動をしようとまで思わないが、人に寄り添って聴く、傾聴のスキルを高めたいという思いを持っている方が多く存在することがわかり、今回のような冊子はそのニーズに応えるものとして、当法人が提供できたのは大変よかった。
可能であれば今後も一般の方々にもわかりやすい内容で、利用しやすい傾聴のテキストを作成、提供していけたらと考えている。
また、今回の事業と直接関係しないが、常に抱えている課題としては、運営資金面の問題と、相談員応募者の減少の問題である。
運営資金の多くを寄付金、助成金で賄っているため、その減少がみられ、相談員自身が維持会員となり相談活動における時間と労力の提供のみならず、資金面でも支えているのが現状である。今後も助成先を開拓し、安定的な運営に努めなければならない。
また毎年募集している相談員については、申込そのものが減ってきている。養成期間が二年間という時間の長さと内容の濃さ等で途中でリタイヤする実習生も多く、二年後、相談員として認定される者は申込み時点の約半数になっている。今後も相談員応募者を増やすべく、募集に力を入れていく必要がある。

特定非営利活動法人神戸アイフレンド

http://eyefriend.wp.xdomain.jp/

【所在地】 兵庫県神戸市須磨区　　【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

1. 視覚に障がいのある子ども達とその家族への視覚支援
○育児相談
・見え方を通して育て方などをいっしょに考える。
○学習支援
・視覚補助具（弱視やレンズや書見台など）の紹介や使い方の練習　・読み書き計算の練習
・展示の初期学習の支援
2. 視覚障がいのある子ども達を取り巻く人達への啓発
○視覚障がいの子ども達の保護者やその家族の交流会
○「見えない見にくい」を知るための体験会

「視覚障がいをもつ子ども達とその家族を継続的に支援する事業」

実施内容

【助成額】16 万円

私達の事業のひとつである視覚障がいの子ども達の学習支援事業を展開するために、
①学習支援を必要とする子ども達の自宅や学習場所などへの交通費
②学習支援で使用する点字教科書や遠くの文字や物などを見る単眼鏡（練習用として）の購入

①について
活動の当初から支援する私達の交通費は支援対象者に負担をお願いしていました。今回支援対象者が西宮在住でしたので、毎回かなりの金額を負担して頂いていました。そのため支援回数を減らしたり、自宅以外の神戸に近い所に来て頂いたりして実施をしていました。今回助成して頂くことになり、支援の回数をふやすことができ、週1回のペースで訪問指導ができるようになりました。

②について
支援対象の小学生は視力や視野に重大な障がいがあり早急に点字を学習する必要がありました。点字を習得するためには、見えている子ども達が字を学んでいく過程とはちがい、手・指の触れや動かし方などから学習していくことが大切です。そのための資料として点字教科書は欠かせない教材です。点字教科書を購入することができ、とても助かりました。学習がスムーズに進みました。

得られた効果

○点字学習を支援した小学生は本人や家族のがんばりのおかげで点字の読みがスムーズにできるようになりました。そのようすを小学校の中でいろいろな交流を通して認めてもらえたようです。また点字が視覚障がいの人たちにとっていかに大切な文字なのかも知ってもらえたようです。
○「見えない見にくいを知ろう」体験会では、幼稚園児や学生さん、大人の方まで幅広い年代の方々に関心をもって頂くことができました。「おばあちゃんが白内障になったって言ってたけどこんな見え方してるんですね。」などというお話を聞き、理解推進に少し役に立ったかなと思いました。

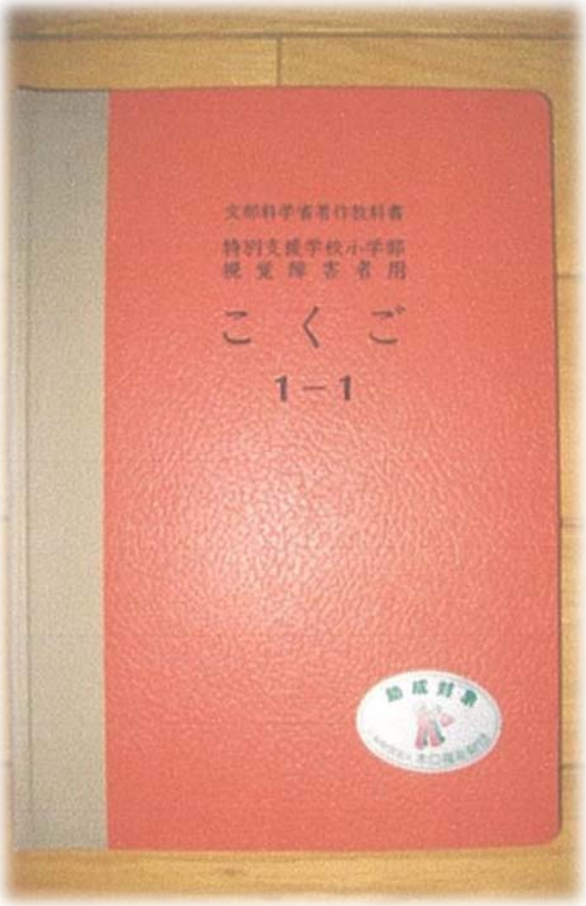
問題点

特になし

次の課題

○「見えない見にくいを知ろう」体験会は年2回実施していますが、回数や実施場所を考えて市内全体に広げて視覚障がいへの理解促進に努めていきたいと思います。

○学習支援を通して、支援のできる人材を育てていくことの大切さを感じ、研修会などをしていきたいと考えています。



特定非営利活動法人クルーズ

https://cruisekobe.com/

【所在地】 兵庫県神戸市中央区　　【対象者】 障がい者、障がい者施設、地域住民、企業

【日常の活動】

・企業や地域団体からのお仕事を福祉事業所に紹介する
・福祉事業所の技術向上の支援

「教室の気になる子との人間関係づくりとコミュニケーション講演会」

実施内容

【助成額】18 万円

第1部基調講演
講師:青山新吾氏（ノートルダム清心女子大学勤務）
長年にわたり特別支援教育に携わってこられた特別支援教育の第一人者。
著書本多数あり。実際のエピソードとともにここに寄り添うことの大切さや気づき、視点の置き方等の開設をしていただきました。

第2部パネルディスカッション
ファシリテーター:多賀一郎氏
パネラー:青山新吾氏、高木かおり氏、奥野嘉奈子氏
司会:松田依子氏
通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校など、それぞれの学び場における教師と子どもとの関係、子ども同士の関係、家族や周囲との関係などについて、教師、保護者、それぞれの立場から子どもたちを育てていくことに必要なことや普段から感じていることを伝え、考える時間とした。

得られた効果

「障がい」とは何かという根本的なことを考える機会となった。教師や保育士が知識だけで関わるのではなく、目の前の「個」の関りを大切にすること、目の前の子どもを理解受け入れるきっかけとなり得たと思われる。
参加者がそれぞれの職場へ拡げていくことでさらなる啓発につながると思われる。

問題点

広報の仕方についてスタッフ間で迷いがあった。
チラシの配布方法については今後の課題になった。
ターゲットを絞って効果的に配布する必要がある。

次の課題

まだまだ障がい者・障がい児とどのように関わったら良いか戸惑っている方が多いと思います。教育現場の先生方の戸惑いや不安は、その障がい児だけでなく先生方、学校、一緒にいる生徒、その保護者、地域に少なからず波及するものと思われます。地道な活動の必要性を感じました。

眼の会

【所在地】　兵庫県神戸市西区　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

調査研究
　平成 22 年度、貴財団より助成頂き報告書を作成。また災害時の要支援者の取り組みを23年度より開催。（インクルーシブデザイン　ワークショップ、シンポジウム等）。また27年度には、平成28年4月1日より施行される「障がい者差別解消法」への取り組みとして、啓発パンフレットを作成。

セルヘルプ活動
　福祉機器展及び QOL 向上に関しての事業を開催。会員外（障がいの有無に関係なく）への参加を呼び掛けている。

スポーツ
　年間1～2回開催している。（盲人卓球、タンデム自転車等）

「災害時の要支援者の支援について、一緒に考えるワールドカフェ」

実施内容

【助成額】24 万円

■午前　基調講演と災害時要支援者5名からのメッセージ
　基調講演は、湯井氏により行われた。知的障がいの子供の母親として、災害時での支援活動をされている。今回、熊本にも数回足を運ばれ、支援活動をされた経験談や、現在大阪府で取り組まれている支援学校の BCP 等についてご講演いただいた。当事者からのメッセージは、橋本氏、藤井氏、中山氏、奥井氏、小山氏の順で、各自が抱えている問題や、支援について発言された。

■午後　六班に分かれてのワールドカフェ
　橋本班、藤井班、中山班、奥井班、小山班、湯井班の六班に分かれて開催。コーディネーターの大塚氏の進行により、活発な意見交換とともに、当事者の置かれている状況や希望等についての理解を得ることが出来、連携の輪の拡がりが感じられた。

得られた効果

従来は、身体障がい者と難病患者を中心に開催していましたが、今回より、知的障がい者・発達障がい者（家族）にも加わって頂き開催しました。その成果として、支援学校関係者やいわゆる一般の方にも参加頂きより広い繋がりが出来ました。また、スタッフやボランティアにも自ら手を挙げて頂く方が増えてきました。災害時要支援者についての関心も次第に広がり、繋いでいく手ごたえを感じました。

問題点

特になし

次の課題

災害時において、災害時要支援者の立場から、当事者自らがメッセージを発信することが大切と感じていましたが、この事業を通じて当事者間及び支援者との間での相互理解が出来ていく中、災害時だけでなく、当事者間の様々な問題点が見えて来ていることに気づきました。災害時だけでなく、普段の生活においても、同様に理解と支援を社会に伝えていく必要性を強く感じました。

あかしユニバーサルフットボール連盟

【所在地】兵庫県明石市

【対象者】身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、その他

【日常の活動】

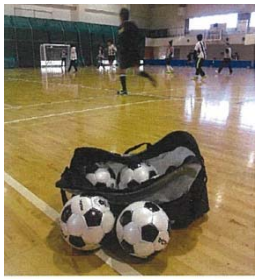
連盟が開催する大会の運営費を明石市の「障がい者の理解促進及び自発的活動等の支援事業」の一部を受けて開催しています。
連盟で取り組んでいる大会開催以外の部分は、各事業所やボランティア等で賄っている。

「あかしユニバーサルフットボール大会」

実施内容

【助成額】19 万円

■ボール（5号）8個/12月11日、2月19日開催の大会で使用。今後も使用予定。
ボール（4号）4個/12月11日、2月19日開催の大会にて使用。今後も使用予定。
ボールバッグ（6個用）2個/12月11日，2月19日開催の大会にて使用。今後も使用予定。
ビブス（15枚セット）3セット/12月11日、2月19日開催の大会にて使用。今後も使用予定。
大会旗　1旗　/次年度以降の大会等にて使用予定。
受付セット（机3台，椅子6脚）/次年度以降の大会等にて使用予定。
ビブス（10枚セット）1セット/次年度以降の大会等にて使用予定。
フットサルボール3個/次年度以降の大会等にて使用予定。
ビブス　2枚/次年度以降の大会等にて使用予定。



得られた効果

障がいのあるなしや障がいの種別を超えた「ごちゃまぜ」でフットサルを通した交流が出来る場が徐々に明石の地に定着してきている。参加者が増え、新たな出会いも生まれている。例えば、付添いで来た家族同士のつながり、支援者同士の出会いも生まれている。メディアで報道されることも時々あり、そうしたことを通して障がいがあってもスポーツを楽しめる、障がいのあるなしを超えて一緒にスポーツを楽しめるということを、少しずつではあるが知ってもらうことに寄与出来ているように思う。
協力頂いている明石サッカー協会の方や元 Jリーグ選手の方も、純粋にスポーツを楽しむ姿に感動し、スポーツのもつ大きな力を知り、世界が広がったとおっしゃって下さっている。そういう中で、協力者、理解者の輪が広がっていることも成果であると思われる。今までなかなか超えられなかった障がい者を巡る様々な壁を、スポーツの力によって、ひょいと超えてしまっている、ということを経験している。

問題点

大会が盛況で内容も充実していくに伴い、特にボール、ビブスについて多くの数が必要になり、事業終了後においても、まだ必要数に足りないこと。

次の課題

ボランタリーな関わりによって成り立っている活動であり、今回ご協力頂いた物品面の不足による苦しさ、人員の足りなさからくるスタッフの負担の大きさ等課題がある。また、大会の広報をしても、例えば施設のスタッフの上層部の所で情報が止まり、本当に必要としている当事者のところには届いていないといった事がよく起こっている。一方で、障がいを持つ方にとって、障がいのない方とのこの度のような一緒に何かを知らない者同士で楽しめるような機会は本当に少ないという現実も見えてきた。同時に、障がいを持つ方だけでなく、地域社会にとって、様々な背景を持つ人や幅広い世代の交流の出来る機会が、そもそも少ないという現実も知った。
そういう中において、人員、物品、金銭面、広報といったことについて、必要なサポートを提供出来る体制が求められると考える。

特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会

http://www.hyogoken-nancho.org/

【所在地】　兵庫県明石市　　【対象者】　聴覚障がい者

【日常の活動】

【権利擁護】
中途失聴・難聴者のコミュニケーション支援を行う要約筆記者の派遣事業を行っています。また、要約筆記のレベルアップを図るため県・市町の開催する要約筆記者養成講座への講師派遣事業も実施。また、中途失聴・難聴者が参加を望む行事の主催者に要約筆記の配置を交渉、中途失聴・難聴者の人権を守る活動を行っています。

【調査研究】
音声認識アプリを試験的に導入し、難聴者の補聴支援にどの程度役立つのか、あるいはどのような場面で効果があるのかを見極める、検討委員会を立ち上げています。

【情報支援】
毎年開催する「兵庫の集い」での研修、「新年一日交流会」での会員相互の情報交換や交流活動を行っています。また機関誌を年 4 回発行。さまざまな情報を会員に届けています。

【余暇支援】【スポーツ・文化活動】
「着物の着付け」や子どもも参加できる「関空見学ツアー」などに要約筆記をつけて実施。通常は要約筆記がつかないため参加できないイベントを、参加できる形で企画・開催。主催者に対する啓発にもなっています。

「第２７回中途失聴・難聴者　兵庫の集い　in 三田」

実施内容

【助成額】13 万円

4/1　第 1 回実行委員会　会場確保済。講演内容や講師依頼について
　　・講師打診　後援名義依頼状作成　・実行委員の役割について

4/17　第 2 回実行委員会　大会メインテーマの検討　予算について検討　広報;案内チラシの検討

6/12　第 3 回実行委員会　講師への正式依頼状発送　会場レイアウトの確認　必要機材の確認　来賓挨拶依頼
　　案内状のたたき台作成　大会メインテーマ決定　7 月に案内状・申込書発送

8/7　第 4 回実行委員会　ステージ以外の企画案　来賓挨拶文の到着状況を確認　当日資料作成

10/9　第 5 回実行委員会　機材調達　協力員の調達
　　打ち合わせ

10/15　当日配布資料の袋詰め作業　機材搬出

得られた効果

・広報に力をいれたので、県内の行政、社協、一般などへの啓発になった。
・実行委員を始め、開催地の難聴者の意識が高揚した。
・障害者差別解消法についての関心が高まり考える機会になった。
・舞台の字幕は聴覚障がい者だけでなく、社会全体が取り組むべきとの認識が広まった。

問題点

参加者が目標に達しなかった。
理由:聴覚者協会会員の高齢化による会員減少。広報に力をいれたが、一般会員の申し込みが少ない。

次の課題

•参加者の動員方法について(特に地域協会長•サークル長の協力強化)
•高齢者難聴者の参加が減ってきた。
•若い人たちの参加を増やしたい。

一般社団法人高次脳機能障害者サポートネット
珈琲焙煎工房 Hug

http://sptnet.org/

【所在地】　兵庫県宝塚市

【対象者】　高次脳機能障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援 B 型事業所運営
珈琲豆の生豆を仕入れ、選別・自家焙煎・ドリップパックの作製・販売を行っています。

■啓発活動
定期的に地域への福祉イベントの参加を行っています。また作業所を知っていただくために珈琲の淹れ方教室、焙煎体験などを行っています。

「高次脳機能障害普及啓発講演会」

実施内容

【助成額】30 万円

高次脳機能障害普及啓発講演会
「高次脳機能障害を抱えて生きること　心のアプローチ」
2016 年 10 月 23 日　13:00～16:30　宝塚ソリオホール

第 1 部　講演会
テーマ「COCOreha(こころのリハビリ)を通して～心のアプローチ」
講師　合同会社 Crossing　臨床心理士 近藤 祐子、臨床心理士 大倉 瑛子
珈琲焙煎工房 Hug では平成 28 年度の事業として、臨床心理士のお二人の先生をお招きし、COCOreha(こころのリハビリ)を行っています。月に 2 度のセッションを通して自分の障がいについて知り、また次のステップへと進むことを目標に仲間と意見交換を行っています。今回はその中間報告もかねた講演となりました。心の面からのアプローチで高次脳機能障がいとはどんな障がいなのか、具体的な症状についてご講演していただきました。また当事者の心の状態はどうなっているのか、アイデンティティの再構築の過程についてもお話ししていただきました。そして働くための準備として必要なことについてお話していただきました。さらに、実際に行っているセッションの内容について、またセッションを通じて見えてきたこと、当事者の方がどのように変化してきたかをお話ししていただきました。

第 2 部　講演会
テーマ「18 歳のビックバン見えない障がいを抱えて生きるということ」
講師　東京大学先端科学研究センター　DO-IT Japan リーダー 小林 春彦
18 歳の時に広範囲脳梗塞を発症し、高次脳機能障がいになった当事者の体験をしていただきました。脳梗塞になった時の状況について、自分の抱えている症状について障がいの大小は必ずしも一致するわけではない。障がいは変えられないが、困難は社会の配慮により変えていけると訴えていらっしゃいました。
DO-IT の活動に参加することになり、身体障がいのある人の中にいれば、自分はここにいていいのだろうか、障がい者だといっていいのだろうかと思った。かといって、障がいを隠して健常者のようにふるまっていても、結局ばれてしまう。どこにいても、居場所がないように感じた。外見からわからない障がい者は理解されない。それなら障がいを見える形にしようと考え、「見た目をコーディネート」することにしたとお話されていました。そのため白杖を持ち、左手に白い手袋をしているとのことです。生きづらさを抱えているのは障がい者だけではない。マイノリティーの人たち、家族関係でトラウマのある人たち、年齢、依存などと考えると誰もが何かを抱えて生きているのではないか。依存先をたくさん持つこと、分散させることで自立の道が広がるとも言われていました。人に迷惑をかけないように、頼らないというのが自立ではない。それは孤立になってしまうとお話しされていました。

第 3 部　シンポジウム
テーマ「10 年後の自分のために今できること」
コーディネーター　山口クリニック　山口　研一郎医師
シンポジスト　小林 春彦/近藤 祐子/大倉　瑛子/珈琲焙煎工房 Hug 北田　真也/珈琲焙煎工房 Hug サービス管理責任者 宮木　真理子/一般社団法人高次脳機能障害者サポートネット理事長 中山　猛

高次脳機能障がい者をとりまく現状について、家族関係・支援体制・就業状況について、それぞれの立場からお話しをしていただき、10 年先にはどのような自分になっていたいのかを具体的にイメージできるような展開でシンポジウムを行いました。山口先生からクリニックで診ている患者さん・家族の様子について。リハビリの場面で以前はもっと活発な議論ややりとりができたが、最近は時代のせいか難しくなっているように感じられる。自分の気持ちや考えを言語化する練習をすることで、脳も整理されていく。クリニックの現状と課題についてご報告があり、それぞれの立場の人の意見、考えを引き出すようにまとめていただきました。

近藤先生・大倉先生からは障害者総合支援法・差別解消法の整備について、高次脳機能障がい者をとりまく就労支援事業・就業状況について報告がありました。家族支援の大切さ等についてもお話がありました
小林さんからは元に戻るというためだけにリハビリをしていたら、終わりがない。できないことに目を向けるよりも、代替手段を多く持ち、しあわせになるために生きていこうというメッセージを発信されていました

珈琲焙煎工房 Hug 北田さんは Hug で COCOreha を受けてみて、自分がどう変わったかについて話されました。自分の症状について、最初は人に話すことがいやで、できないことが言えなかった。いまは、辛い気持ちやしんどさを周りに話せるようになった。周りの人の話を聞くことで、自分だけがしんどいわけではないという思いから少しずつ変化していった。周りが見えてきたことで、行動が落ち着き、先のことが考えられるようになったと話されていた。

珈琲焙煎工房 Hug サービス管理責任者の宮木さんからは、当事者の人がすべて自分の症状についてはきちんと話せるわけではないので、その部分を支援者として代弁していくことが大切だと感じた。

サポートネット理事長中山さんからは、まだまだ高次脳機能障がいの支援は始まったばかりで、これからも啓発が必要である。実際に通える作業所も少ないし、就労先も少ない。一般企業では、高次脳機能障がいを知らないために復職することが難しくなっている。まだまだ高次脳機能障がいが社会の中で浸透しているとはいえないが、講演会活動を通して新しい支援者を増やし、理解も深めていけると感じている。続けていくことが大切さと話した

得られた効果

高次脳機能障がいの特性や症状について、当事者のお話を中心に聞いていただいたことで、より障がいへの理解が深まったと考えられます。今回は当事者や家族だけではなく、支援者の方にもたくさん聞きに来ていただけました。介護職員や障がいや福祉に携わる人たちへ理解が深まることで、よりスムーズな支援につながると感じます。
講演を通じて、Hug を知ってくださった方が、工房に珈琲を買いに来てくださることも増えました。地域に作業所があるということを知っていただくことで、高次脳機能障がいへの理解にもつながると思われます。
今回、Hug の利用者さんも販売活動を行うことができました。自分の作った珈琲が売れるという体験はとても大切なことだと考えています。珈琲の売上が 25,000 円もあり、ボーナス時にそれを利用者さんに分配して工賃としてお渡しすることができました。それも利用者さんにとってはとても励みになったようです。

問題点

特になし

次の課題

1～2年前に比べると、少しずつ高次脳機能障がいとう名前も周知されるようになってきており、その理解も進んでいるように思います。ただ、障がいの症状が一人一人違っていて、障がいの程度や家庭環境にも違いがあるため、家族や支援者にとっては、対応が難しいと思うことが多いように感じます。また、年齢や性別に関わらず起こる障がいのため、抱える問題、問題が多岐にわたります。講演会のテーマも障がい特性についてやその支援という内容から、就労に向けての支援、就労後の支援、当事者の心の問題、家族支援、社会資源の利用について、障がい者年金や成年後見制度などについても取り上げてほしいという意見が多くありました。

作業所のことについても、もっと地域の住民の方に知っていただき、理解を深めていきたいと思います。そのために、地域との交流イベントの企画なども行っていきたいと思います。

特定非営利活動法人みらいプラネット

【所在地】 山口県防府市　　【対象者】 難治性血管奇形患者
【日常の活動】
・チラシ、パンフレットを配布し、難病等支援の啓発を行う。

「難病患者理解促進のための次世代教育研修事業」

実施内容

【助成額】100 万円

・啓発用 DVD を山口県及び佐賀県の小中学校等に配布し、次世代を担う小中学生とその教員に向け、難治性疾患に限らず、どんな病気の患者に対しても理解ある若い世代を育てていくために教育現場で活用するものです。
・DVD 用ブックレットをみらいプラネット関係者を通じて「難治性血管奇形」の理解と啓発のために協力者あてに郵送しました。

得られた効果

「血管奇形」は医学書にまだ掲載されていない難治性疾患ですが、
DVD 中に人権に関する短編ドラマといった内容を盛り込んでいたので、
小中学生にもわかりやすい説明になっています。
そして、そのことが難治性疾患だけでなくいろいろな病気の患者が
受けている差別や不利益、偏見といったものへの若い世代の理解に
繋がったと思います。

問題点

特になし

次の課題

まだまだ病気に対する認識が少ない人々が多く、今後の啓発が更に必要と思いました。

徳島ＤＡＲＣ

https://www2.hp-ez.com/hp/tokushimadarc

【所在地】　徳島県徳島市

【対象者】　薬物依存症、アルコール依存症、ギャンブル依存症等の当事者

【日常の活動】

法務省委託事業　自立準備ホーム登録

・薬物事犯等で刑務所服役後、仮釈放または満期出所した者に住居（共同生活）と食事を提供すると同時に、DARC のリハビリを実践している。
・薬物、アルコール依存症の当事者を主に受け入れ、入寮にて依存症からの回復プログラムと生活支援を提供している。その他、クレプトマニア（万引き依存）、ギャンブル依存の当事者も受け入れている。
・薬物乱用防止啓発を目的としたセミナー及びフォーラムの定期開催。
・学校及び教育関係、保護観察所の身元引受人会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等での薬物乱用防止教育や体験談を主としたメッセージ、講演活動。
・弁護士会と連携し、薬物事犯に関連する裁判における、情状証人出廷。
・留置所、拘置所、刑務所、精神病院での面会やメッセージ活動。
・徳島刑務所での薬物依存離脱教育の実施。（刑務所メッセージ活動）
・電話及び面接での相談支援。必要に応じて医療機関への入院調整、弁護士の紹介、DARC への入寮等の直接的な支援を実施しています。*24 時間、年中無休で対応
・薬物、アルコール依存症の当事者を持つ家族を対象とした相談支援、勉強会の開催。
・徳島県内の海岸の清掃活動など、地域奉仕活動への参加。
・徳島県内のサーフィンスクールやトライアスロンのボランティア

「徳島 DARC サーフィンスクールプロジェクト」

実施内容

【助成額】100 万円

依存症のリハビリプログラムの一環として、徳島県内の海岸にて、サーフィンスクールを年間を通して複数回、開催する。サーフィンを通して、自然の中で健康的な肉体と精神を養う。
サーフィン用具が平成 29 年 4 月に揃い、翌月よりサーフィンスクールを実施。サーフィンスクールの開催に合わせて、地元住民と共に海岸の清掃活動に参加した。
機材の準備が、予定より遅れた為、サーフィンスクールの開催や地元の学生との交流企画について、現在も進行中である。今後も購入したサーフィン用具を活用し、サーフィンスクールの実施や、地元の方とのサーフィン交流イベント、海岸の清掃活動を継続して実施する。

得られた効果

今年度、既に複数の徳島県内の学校（小～高校）から薬物・アルコール乱用防止啓発の学校講演のオファーが来ている。サーフィンスクールや海岸の清掃活動などが、地元の方への宣伝となった可能性がある。
現在、学生を中心に「スマート・ドラッグ」という新たな薬物問題が蔓延している。「スマート・ドラッグ」を使用すると、「勉強に集中できる」「成績が上がる」「テストの点が上がった」などの効果があるとの事で、生徒の親が海外から個人輸入という形で取り寄せ服用させていると話題になっている。こういった、新しい薬物問題に対して、ダルクのメッセージが注意喚起を促す機会に繋がっている。

問題点

特になし

次の課題

徳島県の地域性を活かしたサーフィンという海のスポーツを通して、ダルクと地域住民とが交流を深める事により、依存症という病気について、地域社会に正しい知識と理解を普及し続ける事が必要と感じている。
特に、薬物・アルコール乱用防止啓発に繋げていきたい。
また、海岸の清掃活動やボランティアなど、ダルク入寮者にとって自分自身が活躍できる場所は当事者の自己肯定感を養っていく事に大きく役立つ。今後、地元の方との交流イベントや、奉仕活動の機会を増やしていくことが大きな課題にとなっている。

社会福祉法人はる

http://life-support-hal.net

【所在地】　佐賀県佐賀市

【対象者】　知的障がい者、発達障がい者、精神障がい者、高次脳機能障がい者

【日常の活動】

生活介護事業所ライフサポートはる（定員 20 名）、就労継続支援（B 型）事業所ワークスペースかん（定員 20 名）、就労移行支援事業所ジョブサポートそら（6 名）、居宅介護事業所ライフサポートはる、共同生活介護・共同生活援助事業所グループホーム野いちご（定員 22 名）、放課後等デイサービス事業所じゃんぷ（定員 10 名）、ショートステイ（定員 2 名）、相談支援事業所ほっと
佐賀県強度行動障害支援者養成研修（H27 年度佐賀県委託事業）、障がい者の芸術活動支援モデル事業（H27 年度厚労省委託事業）、福祉有償運送、きてみんしゃいカフェ（地域交流事業）、
障がい児サマースクール、九州ネットワークフォーラム事務局

「看護人材発掘のための障がい福祉の魅力発信事業」

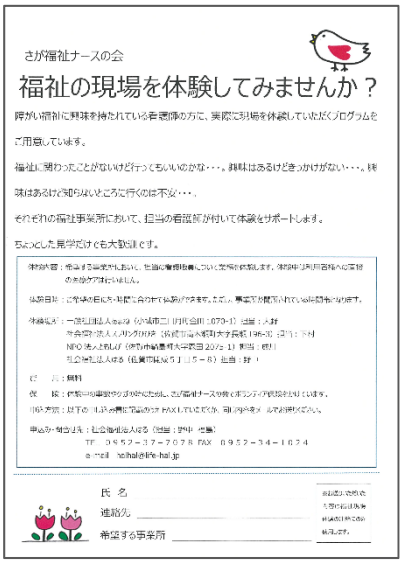
実施内容

【助成額】30 万円

○実行委員会の開催
パンフレットの作成、講演会の開催のために以下のように実行委員会を開催した。
第 1 回　9 月 15 日　パンフレット、講演会企画　参加者 10 名
第 2 回　11月5日　パンフレット作成準備、講演会準備　11 名
第 3 回　10 月 17 日　パンフレット作成準備、講演会準備　5 名

○看護師等に向けた魅力の発信
障がい福祉の仕事について魅力を伝えるパンフレットの作成
A4 カラー裏表 3,000 枚、県内のハローワーク、看護師養成系の学校等で配布

「看護師が福祉の魅力を感じる講演会」の開催
開催日時:平成 29 年 3 月 11 日（土）14:00～15:30
場所:佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」
内容:講演「障がい福祉の流れと看護師の活躍の場」福島龍三郎（社会福祉法人はる）
　　報告「障がい福祉サービス事業所で働く看護師の仕事と想い」
　　下村真由美氏（社会福祉法人スプリングひびき）
　　成川かおる氏（特定非営利活動法人ともしび）
　　大野真如氏（一般社団法人あまね）
参加人数:36 名



障がい福祉に興味ある看護師等を対象とした現場体験
対象:講演会参加者およびチラシを見た人
人数:1 名
体験場所:一般社団法人あまね　放課後等デイサービスいーはとーぶ

得られた効果

メディア（新聞）に興味を持ってもらい記事として掲載されたことで、「福祉ナース」という看護師の働き方を広げることができた。
参加した人たちから以下のようなコメントをいただき、福祉ナースの魅力を知ってもらうことができた。
「感動して泣きました。実習など大変ですが、こんなにも看護師を必要としてくれている人たちがいるんだなと感じました。私も「可愛い笑顔」のために頑張ります。将来、福祉ナースの経験もしたいと思いました。」（看護学生）
「講演会を聴いて、看護師の原点、目指したきっかけ等と思いだしました。同世代の方がパワフルに活躍されていて、その活動がたくさんの方々を繋ぐ人脈となっていて、福祉ナースの方を尊敬すると共に羨ましくも思いました。」（看護師）
「福祉ナースの方々の熱意を感じました。やりがいを感じて働かれていて、その思いがズンズン伝わってきました。」（看護師）
「新人看護師の頃、小児科に勤務していた事もあり、重心で働かれている看護師さんに興味を持ちました。」（看護師）
佐賀県障害福祉課より以下のような問い合わせをいただいた。
「佐賀県では医療的なケアが必要な方たちのショートステイの環境整備のために、看護師さんたちが同行する送迎サービスへの補助を検討している。福祉ナースの会でそのようなサービスをしてくれる事業所の情報がないか。」
参加事業所の一つ（一般社団法人あまね）が県と協議することとなった。
講演会に参加した看護師（1名）や現場体験をした看護師（1名）が、実際に障がい福祉サービス事業所に就職（パート）をした。

問題点

実行委員会を予定の回数開催できなかった。
現場体験の人数が少なかった。

次の課題

講演会参加者や新聞記者とのやり取りのなかで、看護師が障がい福祉サービス事業所で働くということについて認知度が非常に低いことが再認識された。
一方で、講演会参加者のアンケート結果や実行委員のメンバーへの話によると、障がい福祉サービス事業所で働くことについて肯定的な意見も多数見受けられた。
あらためて課題として認識されたことは、看護師が障がい福祉で働くという選択肢の認知度の低さや障がい福祉における仕事の魅力の発信不足だと思われます。

元気のでるアート！実行委員会

【所在地】　大分県臼杵市
【日常の活動】
　大分県内で障がい者の作品の巡回展を実施

【対象者】　肢体障がい者、知的障がい者、発達障がい者、精神障がい者

「『元気のでるアート！Vol. 12』展示会」

実施内容

【助成額】81万円

●展示会
①うすきまちなかアート
　•平成 28 年 9 月 3 日（土）～9 月 30 日（金）
　•場所:臼杵市八町大路商店街　臼杵市観光交流プラザ

　•臼杵市内の商店街（35 店舗）の店内に作品を展示した。
　•1 店舗の展示作品数は、店の規模や、展示可能な箇所が店舗によって異なったが、少ない店では、2 点。多く飾れる店は 10 点以上。陶芸作品は 50 点程展示した店もあった。
　•店主が大変ご理解があり、作品の説明をしてくださったり、展示する為に商品を片付けたりしてくださった。
　•臼杵市ケーブルテレビの取材があり、期間中は番組で紹介があった。
　•観光客の方が、店舗の写真を撮ったりしていた。
　※この企画は、商店街の方も積極的で、チラシの作成費は、商店街が負担。新聞の折り込みにも入れている。
★ワークショップ開催
　•9 月 17 日（土）…粘土で遊ぼう！
　•9 月 18 日（日）…楽しい絵手紙
　•臼杵市観光交流プラザで食フェスと同時開催した。
　•障がいのある作家が講師となりワークショップを実施したが、盛況だった。
　•20 名定員で募集したが、両日とも定員以上の申し込みがあった。

②大分療育センター
　•平成 28 年 11 月 29 日（火）～12 月 28 日（水）
　•場所:大分市大字国分字六重原 567-3
　•大分市にある、障がいのある子どもの医療機関（受診だけでなく、療育・訓練等も実施）での展示。

③アートプラザ
　•平成 29 年 1 月 17 日（火）～1 月 29 日（日）
　•場所:大分市荷揚町 3-31
★ミュージアムショップにてグッズ販売（アートプラザからの依頼）
　•大分市中心地で市役所・県庁のあるエリア。

得られた効果

①展示会場とした、アートプラザ（大分市）からの依頼で、展示期間中にグッズ販売が出来た。
　•場所は、ミュージアムショップ
　•販売の依頼があったので、グッズを製作した。（今までなかなか機会というきっかけが無かった）
②当初は展示会だけの実施予定だったが、セミナーを同時開催した事で、ネットワーク構築の足掛かりとなった。
③展示会来場者の感想は、作家の皆さんの励みになった。
④作家の中に高校生（支援学校）がいるので、市外の支援学校関係者（保護者•教師等）に輪が広がった。
⑤facebook にあげてくれる来場者がいた。

問題点

①展示会場での説明をするスタッフがいない
　•「うすきまちなかアート」と「大分療育センター」の展示においては常駐するスタッフがいなかった
②展示会受付の人員確保
　•「アートプラザ」での展示会については、受け付けが必要だったが、調整が課題
　　出来れば 2～3 名体制がとりたかった。アルバイトの受付+作家や実行委員会スタッフ+ボランティア
　•作品の説明や、作家の事を聞かれた時に、答えられるボランティアやスタッフが少ない
③新聞•テレビでも紹介されたが、まだまだ周知が出来ていない

次の課題

●今後の課題
①障がいのある方のアート活動に対しての理解。
　•施設関係者•家族•地域等　•すばらしい作品や人材（作家）が埋もれている。
②支援者の不足。ボランティアや、サポーターとして活動できる人員が足りない。
　•大学や専門学校が市内や近隣にないので学生の支援が得にくい。
④外部からの展示依頼に対応出来ない。
　•②同様に、人員と資金の不足
⑤自分達の研修やネットワークづくり
★上記の事は、今の体制ではなかなか解決しないと考えられる。
　今後は、安定した運営が出来るように、NPO や、一般社団等の法人化を視野に入れていきたい。
★今回は、木口福祉財団のおかげで、イーゼル等の備品をそろえることが出来ました。展示会の受け付けも、アルバイトのおかげで、保護者や支援者の負担軽減が図れました。
　本当にありがとうございました。作家•スタッフ一同感謝致します。

特定非営利活動法人ポラリス

http://polaris-yamamoto.com/

【所在地】 宮城県亘理郡山元町　　【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

○就労継続支援B型事業所の運営
創作活動、作業訓練（清掃作業・接客販売・事務作業など）、職場実習、施設外就労訓練
施設外支援、その他
○障がい者及びその家族の相談支援　○障がい者理解のための地域啓発活動
○表現活動での地域交流　○地域でのボランティア活動
○自立のための体験実習（調理実習・社会見学・その他）　○心のケアカフェ

「被災障害者の生きる力を取り戻す芸術・文化体験旅行の企画開催」

実施内容

【助成額】50 万円

東日本大震災で被災した障がい者が、生きる力を取り戻すために、日本を代表する芸術・文化に触れることが出来る投稿への体験旅行を企画実施する。

【開催までのプロセス】

平成 28 年 12 月

・各家族に企画書を配布し、本人と家族で参加について検討

平成 29 年 2 月

・お金の勉強（買い物ゲーム、お金の数え方など）　・参加者用企画書の配布

平成 29 年 3 月

・東京に行くための定期的面談（必要な生活訓練内容について）開始

平成 29 年 6 月

・ビジネスホテルでのマナー　・普段（通所時）の持ち物について個別に助言し、定着を図る

・JR常磐線利用の練習

平成 29 年 7 月

・交通機関利用と宿泊のために必要な個別スキルトレーニング　・研修行程の説明と研修上の注意事項の説明

・トイレ、暑さ対策、公共マナー等の話し合い　・しおり配布と内容確認。参加者との個別面談（心配なことを共有する）

平成 29 年 8 月

・こづかい、お土産を考える。持ち物を考える。個別面談

・これまでの各自振り返り（頑張ったこと、これから頑張ってできるようになる事）

・「こづかい計画」「自分のお薬のメモ」の記入。お土産の買い物練習

・服薬を個別確認。コミュニケーション（会話とマナー）についての指導

・健康管理についての助言。コミュニケーション実践トレーニング

・「しおり」の資料追加（座席表、持ち物）についての説明

平成 29 年 9 月

・ホテルにあるもの、自分で持っていくものについての説明

・持ち物のリハーサル（各自持参してスタッフと確認）

平成 29 年 9 月 14 日～15 日　東京体験旅行の開催

(9 月 14 日)

○JR常磐線＋東北新幹線＋京浜東北線で出かける
○劇団四季ミュージカル「ライオンキング」観劇
○桜美林大学協力で、大学バスで宿泊先へ移動
○第一ホテル両国に宿泊

(9 月 15 日)

○桜美林大学協力で、大学バスで美術館へ移動
○国立西洋美術館常設展を鑑賞
○東北新幹線＋JR常磐線で帰る

得られた効果

○町内外のいろいろな個人・団体の応援を得て、社会スキルの向上により役立ちました。私たちは都心の人混みや最短の移動方法などもわからず、そういった未知の部分を親身になって皆さんから応援をいただき、おかげさまで全員無事元気に研修に参加し貴重な体験をすることができました。

①劇団四季のチケット予約への支援をしていただきました
②公共交通機関やその利用マナーについて学ぶことが出来ました。
③当団体の工程や参加者について考慮して適したホテルを探す支援をしていただきました。
④大型バスでの都内の移動支援(送迎支援)をしていただきました。
⑤目的地への最短の移動経路を案内・引率する支援をいただきました。

○参加障がい者とその家族の意識の変化

①親と一緒でなくても、他の協力者に手伝ってもらい旅行ができる自信を親子で持てたと思います。その経験で、お子さんの可能性を認めることが出来たと思います。
②生活の中で、1人でできることが増えたと思います。(服薬、入浴、洗髪、整髪、会話)
③お子さんがいきいきと地域活動をするためには、楽しみや目標を持つことが大切とご理解いただけました。
③お子さんがいきいきと地域活動をするためには、楽しみや目標を持つことが大切とご理解いただけました。

○地域住民、特に会員やボランティアの方々に障がい者福祉への理解を深めてもたいました。

①この研修のための練習を進めていく中で、被災した障がい者の表情がとてもあかるくなったと一緒に喜んでいただけました。
②交通弱者の方も駅や電車を利用したすいように、公共交通機関の環境整備することの大切さを地域の方々と共通理解することができました。

問題点

特になし

次の課題

○今回の体験を機会に、日々の体力づくりや社会スキルトレーニングを継続、向上できるようにしたいと思います。今回のように楽しい目標があると、とても意欲的に生活の中で課題となっていることに取り組める事を実感しました。単に生活のために「働こう」と就労支援しても、そう簡単に障がいを持って意欲的に臨むことは難しいと感じます。「楽しい事」を自分や家族だけで叶えることが出来ない地域事情もあり、今後も時期を見て企画していきたいと思います。

○共感しいろいろな課題を一緒に取り組んだり、協力してくれる個人・団体と継続して連携していこうと思います。
今回参加した障がいのある方をマンツーマン、あるいは１対２で支援できる体制ができ、このような研修を無事進めることが出来ました。今後についても安心なバックアップ体制をつくり企画することがとても大切と感じました。その現実には資金を援助していただくチャンスが必要と実感しています。

子どもの問題を考える会仙台

【所在地】　宮城県仙台市青葉区　　【対象者】　発達障がい者の親、ひきこもり等に悩む親

【日常の活動】

毎月１回、定例会を開催。講師の先生の指導により、グループディスカッションと自律訓練法を行っています。自立訓練法とは心身安定のための心理生理学的訓練法で心と体をリラックスさせ、ものの考え方や感じ方、行動の仕方を切り替え心身の安定を図ります。
年に1,2回の子育て講座や、震災後は不安や悩みストレスに対して、絵の講座、音楽の講座、相談会を開催しています。

「アイムヒア僕はここにいる上映会＆自律訓練法講座・グループ相談」

実施内容

【助成額】50 万円

・発達障がいについて深く理解しどんな支援が必要かを学び、すべての人権が尊重される豊かなやさしい社会の現実。
・震災によって受けた心の傷や不安ストレスをやわげ、穏やかに過ごせるようにするをテーマに『アイムヒア僕はここにいる』上映会、心身の安定を図る自律訓練法、子育ての悩み、不安やストレス、生き辛さなどの話し合いの場を設け開催

講師:千葉伸子氏（東京心理教育研究所専任講師／NPO 法人 SPYE 倶楽部代表理事）
日時:平成 29 年 3 月 11 日(土)13:15～16:30
会場:仙台市市民活動サポートセンター　セミナーホール
内容:　13:15～13:20　挨拶
①13:20～14:15　『アイムヒア僕はここにいる』上映会
②14:15～15:00　自立訓練報講座
③15:10～16:30　グループ相談会
日時:平成 29 年 6 月 10 日(土)14:00～17:00
会場:多賀城市民会館　展示室
内容:　14:00～14:05　挨拶
①14:05～15:00　『アイムヒア僕はここにいる』上映会
②15:00～15:30　自立訓練報講座
③15:45～17:00　グループディスカッション

得られた効果

・子供の問題を考える会仙台を多くの方に知っていただいた
・子育て支援の団体の方と、今の現状などお互いに話すことができ、これからの活動のヒントになる。
・発達障がいは現在子供についていろいろ支援の方法があるが、大人に対してはなかなか厳しい社会であるとの声が多く聞かれた

問題点

・予定していた日に会場が取れなかった
・6 月 10 日に開催の参加者が、予定より集まらなかった

次の課題

•発達障がいの成人以上の方に対して、社会や家族の理解が少なく、我慢やあきらめで、すごしていることが多く聞かれました。発達障がいについて、深い理解や支援などを発達障がいに関わる方だけでなく、一般の方にも学べる場を作っていく事がとても必要で今後の課題です。
•他の団体との連携や情報交換などを積極的にやっていく

ARTS for HOPE

http://artsforhope.info

【所在地】　東京都千代田区　　【対象者】　障がい児、家族、教員

【日常の活動】

■国公立の美術館、博物館の委託事業として、障がい者アートの展覧会開催、アート教育プログラムの実施等
■東北北沿岸全域の教育施設（保育園・幼稚園・小学校・児童クラブ等）、医療機関、仮設住宅、復興住宅等にてアート活動により子供たちの心を開放し豊かな創造力の育みを応援する活動

「障がいを越えバリアフリーな地域社会を目指すアートプロジェクト」

実施内容

【助成額】50 万円

開催日:2017 年 2 月 11 日（土）
会　場:仙台市福祉プラザ　「第 20 回ろう教育を考えるつどい」内
対　象:第 20 回ろう教育を考えるつどい参加者
内　容:聴覚に障害を持つ子供たち・ご家族を対象に、様々な素材を用いて世界でたった1つの作品を生み出すワークショップ、自由に画材を組み合わせて創るダンボールハウスワークショップを開催しました。
参加者の様子:2つのワークショップを自由に楽しめる空間に子供たちは夢中になりました。作品が完成すると、満面の笑みと共に自信にあふれた表情が見られました。みんなで描き、創り上げたダンボールハウスは子供たちの創作意欲溢れる基地となっていました。

開催日:2017 年 7 月 13 日（木）
会　場:福島県立相馬支援学校
対　象:知的・肢体障がいのある相馬支援学校小学部の子供たち
内　容:学校からのリクエストにより、無限の色を全身で感じるボディペインティング活動を開催しました。それぞれのペースで色を重ねてペイントが進み、3 枚の素敵な大作が完成しました。作品は学校へ寄贈し、後日校内や学校行事にて展示され、保護者の皆様や来校者の皆様へお披露目されてます
参加者の様子;初めてのダイナミックなボディペインティング活動に、始まりの瞬間は躊躇や戸惑う様子も見られましたが、子供たちに「楽しい！」「嬉しい！」感情が、それぞれの表現方法で表れていました。活動終盤にはアート体験の時間の終了を惜しみ、寂しそうな表情や、「また来てね」という子供たち自身からのリクエストも寄せられました。

得られた効果

・ご家族や学校教員の皆さんにも子供たちと一緒に参加いただくことで、心と身体が解放されていました。家族同士の交流や、先生方同士の交流が活発になる様子を活動中にも見ることが出来、日常生活では持つことが難しい心の交流を図ることが出来ました

・支援学校においては完成した対策を校内展示、学芸会の子供たちの劇の背景として使用され、学習の成果を発表する場面で今回のアート活動で生まれた作品が展示され、子供たちの自信につながることが期待できます。また、活動の様子が地元メディアにて取り上げられ、活動の様子を保護者の皆さんにもご自宅にてご覧いただくことが出来ました。初めての活動には馴染めないと思っていた我が子が楽しそうに夢中になる姿に、多くの喜びの声が学校へ寄せられ、保護者の皆さんの喜びや自信にも繋げることが出来ました。

問題点　特になし

次の課題

・活動開催地（学校や病院など）の都合によるスケジュール変更への対応の難しさを強く感じ、助成事業として開催する場合の課題として改善していきたいと思います。

・東日本大震災から 6 年半が経過し、支援の人々の意識が薄れていることを強く感じます。障がいをもつ子供たちや人々の心は現在も尚、不安や恐怖のフラッシュバックがあり、揺れ動いています。当所へ寄せられる活動要請に今後も１つずつでも応えれるよう努めていきたいと思います。

東北関東大震災の被災者を支援する市民の集い

http://tksupport.jp/

【所在地】　兵庫県神戸市須磨区　　【対象者】　関西に避難している東日本大震災の被災避難者

【日常の活動】

当会は弁護士、司法書士、税理士などの有資格者の集まりです。
避難者の生活面での悩みなどにアドバイスや相談を行っています。心理面のケアには兵庫県臨床心理士会さん、子供たちのケアとして兵庫県音楽療法士会さんと協力して対応しています。

「あしたの集い」

実施内容

【助成額】25 万円

被災避難者が集うイベントの開催
2016 年 10 月 2 日『第 26 回あしたの集い:須磨浦山上遊園　須磨浦山上軽登山』
参加者:大人 6 名　子供 7 名
2016 年 12 月 10 日『第 27 回あしたの集い:クリスマス会』
参加者:大人 15 名　子供 15 名
2017 年 2 月 19 日『第 28 回あしたの集い:近郊　兵庫七福神を訪ねて』
参加者:大人 5 名　子供 2 名
2017 年 4 月 15 日『第 29 回あしたの集い:神戸まち歩きツアー』
参加者:大人 10 名　子供 9 名
2017 年 7 月 30 日『第 30 回あしたの集い:神戸空港見学ツアー』
参加者:大人 15 名　子供 17 名

得られた効果

長期間活動を継続して来たので「あしたの集い」でお知り合いになった方同士が自助団体を立ち上げ独自で活動されるようになりました。
毎回、ボランティア学生さんを受け入れていますが、マスコミに出ない避難者の悩みなどに直に触れることにより、新たな活動を模索されています。
兵庫県立大学の学生さんより支援者の心理的変遷に関しての研究を行っているとの報告がありました。
イベントに参加することにより相談等のハードルが下がり、通常では聞きづらい知的障がい児に関する相談や不登校に関する相談も多く受けています。

問題点

特になし

次の課題

活動を始めて 6 年目になりますが初参加の方が概ね 3～4 割おられます。イベント告知に関しても今後、工夫してよい多くの方に情報が届く様にしたいです。
イベント内では対処し難い個別相談事案もありますので、別途時間をもってプライバシーを確保した状況で相談を行えるように考えています。

株式会社熊本地域協働システム研究所
指定共同生活援助事業所いこい計画

【所在地】　熊本県熊本市中央区　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者
【日常の活動】
　グループホーム「渡鹿本館」「明篤館」の運営

「地震で破損したグループホームの補修工事」

実施内容

【助成額】50 万円

「渡鹿本館」給水設備取替工事
「明篤館」漏水補修・外壁等補修

今後の取り組み

災害によって被災した障がい者施設利用者の受けた精神的ダメージは思った以上に重く、地震前の平穏な生活に戻れていない者がいます。どれぐらいの期間が必要かわかりませんが、地道なケアを続けていくしかないのが現状です。

特定非営利活動法人ル・シエルくまもと
就労継続支援Ｂ型事業所シャトレ

【所在地】　熊本県熊本市西区　　【対象者】　発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援Ｂ型事業所の運営
裂織（さきおり）と呼ばれる織物とそれを使用した小物や雑貨の製作

「地震で破損した機材備品の購入」

実施内容

【助成額】485,600 円

・事務所を復旧させる事業において、パソコン・プリンターの設置及びウィルス対策
・利用者が安心して通所でき作業を行えるための環境整備
・障がいの特性に配慮した備品の設置
・心地よい空間を作るためのパーテーションの設置

作業場が明るい雰囲気になり心地よい椅子に座り安心して作業ができるようになった。
リラックス効果も上がって利用時間も延びている。
パーテーションで空間を作ることにより視覚の問題を抱えた利用者や不安定な気持ちを持たれている利用者やまだ慣れていない利用者にも有効な支援となっている。
聴覚過敏の問題を抱えた利用者にはイヤーマフ、ヘッドホンがいつでも使えるということで安心感を与えている。利用者からは使ってみて「安心した、よかった」の声を聞くことができた

今後の取り組み

震災後不安定さが増した利用者の方々も現在では落ち着きを見せられ利用人数も増えている。
今後の課題として見えてきたことは、利用者が増えたため現在使っている部屋が手狭になってきている事。利用者の特性から余裕のある空間を必要とするため、今後個別支援を行う為の作業場の拡大及び施設整備を行いたい
利用者の障がい特性も様々であるためスタッフの資質の向上及び支援技術の向上が不可欠である。スタッフが同じ考えで支援できるように研修を強化する取り組みを行っていきたい

社会福祉法人くまもと障害者労働センター

http://www.1985orange.com/hojin.html

【所在地】 熊本県熊本市東区　　【対象者】 障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型・生活介護の多機能型事業所の運営
サーターアンダギー、シフォン、焼かりんとうなどの焼き菓子の製造・販売、カフェ、弁当配達、
パソコンを使った名刺の版下データ作成や封筒の名入れ、チラシデータ作成等
■共生ホームの「元気」の運営
■障がい者人権啓発のための講演会

「地震で破損した機材と宅配弁当事業のための機材購入」

実施内容

【助成額】814,800 円

・給湯器の取替
・業務用冷凍冷蔵庫の整備

熊本地震後、当事業「おれんじカフェ」は約 5 か月の間カフェの営業を行うことができなかった。
その間「おれんじカフェ」の事業展開を今後どうするか、障がいのある当事者も含め、何度も話し合い検討を重ねた結果お弁当事業を新たに挑戦することとなった。9 月より試験的に事業を開始したが、以前のカフェの設備では食材を十分に保存することが困難であり、お弁当を注文いただいてもお断りをしないといけない状況であった。
今回の助成を受け給湯器の取替と業務用冷凍冷蔵庫の整備を行ったことで、調理の環境の確保、配食可能な食数が増加し、注文をすべて受注できるようになった。

今後の取り組み

当事業所の所在する地域は、福祉施設や病院などが多くあり、地域で一人暮らしをする障がい当事者は多く住んでいる地域である。当事業所の障がい当事者の多くが、同じように地域で働きながら一人暮らしをしている。以前より見守りサービスを含むリーズナブルな夕食の配食を希望する声が多々あり、今回開始した弁当事業はこうした自立した障がい当事者のニーズに沿ったサービスとして今後もよりよい事業展開を検討する。
今回の熊本地震を機に働くこと、生活すること、地域で生きること等様々考えさせられた。
新たな仕事を生みだし、働く機会の創造と所得保障へとつなげること、障がい当事者や子育て世代、高齢者、高齢世帯など個々が抱える生活課題も含めて、働きやすい環境を整えること等、地域で抱える課題と共に解決にむけた事業の見直しや挑戦が必要である。

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会

https://kenshikyou.jimdo.com

【所在地】　熊本県熊本市東区　　【対象者】　視覚障がい者

【日常の活動】

■視覚障がいに対する交通安全の確保、歩行環境の整備　、高齢視覚障がい者対策の推進、職域を守るとともに職業の安定、確保の推進　相談等

「歩道の危険物から視覚障がい者を護る超音波式歩行補助具の購入」

実施内容

【助成額】800,000 円

平成 28 年 4 月の熊本地震により、建築物や道路等の生活圏に危険個所が多く発生しました。そのため、視覚障がい者の歩行が妨げられ、歩行環境が著しく悪化しました。具体的に下記のような状況の変化により、障害物への衝突や転倒による危険性が増加しました。

•避難や転居により歩行環境が悪化した
•建物が倒壊し、歩行の障害になっている
•建物の修繕のため、足場などに障害物が多くなっている。
•工事車両の駐車が多くなっている。
•各種工事などによる立ち入り禁止区域の縄張りなどの障害物がある
•各種工事等により慣れない道に迂回することが多くなっている。

このような状況下で歩行時の安全性を高めるために、
通常使用する白杖に加えて空中の障害物を感知できる
超音波式歩行補助具（パームソナー）10 台の購入。
また使用するにあたり当事者への研修会も開催した。

今後の取り組み

熊本地震の被災により、行事で使用する会場の確保が厳しくなっています。1 年以上経った現在でも、行政が所有している障がい者施設は再建の目処が立っておらず、有料施設を借用するには財源が厳しい状況にあります。
また、震災支援とは直接の関連はありませんが、視覚障がい者の団体は年に 1 回の全国大会、九州大会をそれぞれ各県持ち回りで開催しています。これは視覚障がい者の福祉向上を目指して行われている大会です。当協会も毎年これからの大会へ所属会員の参加を呼び掛けているところですが、視覚障がい者全体の収入の低下傾向もあり、近年参加者が減少しています。そのような折の熊本地震で今後の大会参加はされに厳しくなると危惧しています。
当協会は財政基盤が弱いこともあり、交通費の補助を行うことができませんので、交通費等大会参加に対する助成がいただければありがたいと感じています。

一般社団法人障害者がともに暮らせる地域創生館
被災地障害者センターくまもと

https://hisaitikumamoto.jimdo.com/

【所在地】　熊本県上益城郡益城町　　【対象者】　被災障がい者

【日常の活動】

被災障がい者を支援するためのセンターを運営
物資の提供、夜間の食事介助、入浴介助、避難所から避難所への移動支援、時間をかけた傾聴などの精神的支援、住居探しと斡旋や情報提供、修理費用や生活費に関する相談、助成金の支援、福祉サービス受給に関する相談　等

「被災障害者の救援活動と地域福祉サービス拠点の運営」

実施内容

【助成額】2,500,000 円

■被災障がい者の個別の生活支援・被災地の障がい者支援事業所の支援（100 万円）

当センターは被災障がい者の支援として、①緊急物資の配布　②介護を含む日常生活支援　③住環境に関わる支援　④生活環境に関わる支援　⑤法定の福祉・就労支援や医療へのつなぎ支援　⑥相談　などを現在まで行ってきました。これらは、原則として金銭自体の給付という形では行っておりません。

しかし被災障がい者の中には、建物が壊れ修理の必要があるにもかかわらず、公的な義援金ではまかなえない、もしくは公的な義援金が支給されず、地震やその後の大雨によって壊れたまま家屋で生活せざるを得ない人がいます。そうした場合、ボランティアでも修理可能な場合には当センターで資材を購入し、器用なボランティアに頼んで応急修理的なこともやってきましたが、専門的な技術を必要とする場合には、当センターとしても手が出せない状況でした。こうした場合、一般的には個人が資金を工面するしか他に方法がないわけですが、障がい者の中には働くこともできず、同居の家族や自らの蓄えもほとんどない方もいらっしゃいます。また、被災によって日常生活に必要なお金がない人もいます。そこでこうした場面のために貴財団からいただいた 100 万円を使わせていただきました。

■地域の福祉サービスとつながりを持たない障がい者のニーズを掘り起こすための取り組み（50 万円）

このニーズの発掘は、このセンターのチラシを避難所、仮設住宅などに広く配布するなど、当センターの存在を周知したうえで被災障がい者からの相談を受け、それに基づいて個別の支援を日々行う中で行っております。これらを担うのは、これまで被災地障害者センターくまもとで雇用していた職員でしたが、被災地障害者センター熊本に寄せられた義援金が少なくなることを想定し、29 年 11 月からは地域創生館の職員として雇いなおした職員や新規の職員でこれを行っております。それで、この 50 万円については、地域創生館で雇用した職員の給料として使わせていただきました。

■益城町の新しい拠点での地域生活支援事業が軌道に乗るまでの「つなぎ」の運営資金（100 万円）

地域創生館のつなぎの資金として法人格取得、登記手続きにかかる費用、建物の火災保険料、土地の賃料の支払いにかかる費用などに充てさせていただきました。

今後の取り組み

まだまだ、障がい者からのSOSは途切れない状態です。被災障がい者の個別支援を継続していく必要がありますが、地震から１年たった 4 月以降はボランティアも、義援金もかなり減少しております。ですので、法人格のある「障がい者がともに暮らせる地域創生館」を主体に地域生活支援のための事業の許可を得て、障がい福祉サービスを展開し、

行政から給付される事業の対価をベースに独立した運営を可能にしなければと思って、障がい福祉サービスの認可を受けるための準備を行っているところです。現在、日本のどこでもそうですが、福祉を担う人材の確保が困難な状況ですので、益城町の住民を対象に福祉の職員としての資格を取得できる研修などを行い、その中から人材を確保するなどの取り組みを準備しているところです。

特定非営利活動法人あゆみ生活介護支援センターあゆみ

【所在地】　熊本県熊本市西区　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

生活介護事業所「あゆみ」の運営
身体機能及び日常生活の維持向上のための支援の提供、入浴及び食事介助の提供
創作的活動又は生産活動の機会の提供

「重度障がい者のための臨時ショートステイの開所」

実施内容

【助成額】487,700 円

重い障がいをもつ人達は一般の避難所では生活できないことがわかり急きょ臨時のショートステイを開所し対応した。
（利用者 3 名を初め家族共倒れ寸前に追い込まれ何処の施設も受け入れ不可能の為）
助成金は臨時職員の人件費及び他県ボランティアの食事代として使用させていただきました。

今後の取り組み

・最重度の障がいをもつ人達を突然おきる災害時に対応するにあたっていつでも受け入れられる体制作りの必要性
・障がいをもつ人達は車中泊もできない事が浮き彫りになった、今後国、県、市に対し実情を訴え福祉避難所のマニュアルを障がい者とその家族に情報提供又、一般の避難所でも障がい者が利用できる体制作り等を要望していく事の必要性を切に思いました。

特定非営利活動法人熊本県難病支援ネットワーク

http://kumamotonanbyou-center.org/npo.html

【所在地】 熊本県熊本市西区　　【対象者】 難病患者

【日常の活動】

熊本県からの業務委託を受けた「熊本県難病 相談・支援センター」の運営
難病の啓発、重症難病患者支援、難病者就労支援、各種研修会などへの講師派遣等

「難病や慢性疾患の被災者を支援する訪問活動」

実施内容

【助成額】78,667 円

熊本地震により被災地域（避難所等）への当事者訪問と、当 NPO が熊本県より委託運営している「熊本県難病相談・支援センター」についてご存知ない難病や慢性疾患をお持ちの当事者の方への、相談できる場所があることを周知するため、各避難所へ熊本県難病相談支援センターのチラシを掲示及び配布することにより相談場所があることを周知するための人件費及び交通費

今後の取り組み

今回の避難所訪問により、当事者の方（難病や慢性疾患等）がなかなか自分が病気を持っているということを声に出すことが困難であったという事がわかった。避難所には多くの医療関係者が出入りしていたのだか、相談には至っていないこともわかった。誰がいつ病気を患うかわからない中、このように相談できる場所があるという事を知っていることで、何らかの支援へとつなげられたらと考えた。また、様々な機関との連携、顔の見える関係作りも必要であると感じた

特定非営利活動法人地域たすけあいの会

https://tiikitasukeainokai.wordpress.com/

【所在地】　熊本県玉名市　　【対象者】　障がい者、高齢者、児童

【日常の活動】

「生活支援センターささえあい」の運営
　訪問介護事業、居宅介護支援　等
「サポートセンターわかちあい」の運営
　居宅介護・重度訪問介護、就労継続支援 A 型事業所　ガイドヘルパー　等
「学童クラブそんごくう」の運営
　学童保育　　等々

「地震で損壊した障がい者の就労継続支援事業所の補修工事」

実施内容

【助成額】500,000 円

平成 28 年の熊本地震により被災した就労継続支援事業所の屋根、外壁、内壁等の補修工事

今後の取り組み

①熊本震災で賃貸住宅に暮らす障がい者がいるが大家より建物が古いため修繕しないと通告されており、安心して暮らせる為の補修もしくは引越し支援が必要になる（独居で家族がいない）

②災害時の独居の障がい者の安否を確認できる連絡網、確認方法の確立

③今回益城町の避難者の一時受け入れを行っていた。そうした場合の食糧・水の備蓄等の受け皿として、宿泊・入浴の対応が出来るようにしたい

④玉名市は比較的に被害が少なかったので、現在仮設住宅で生活している方などに継続的支援を行いたい。

特定非営利活動法人夢のかけら舎

https://yumeno-kakerasya.jp/

【所在地】　熊本県菊池市　　【対象者】　知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援事業所（A 型／B 型）「夢のかけら舎」の運営
アート作品の制作、販売、リースや展示

「地震で破損した障がい者の就労継続支援事業所の屋根等補修」

実施内容

【助成額】54,000 円

事業所の下屋雨漏り修理、基礎部分のヒビ割れ補修

今後の取り組み

経営が安定する＝利用者さんが安心して働ける場所となる為の商品化企画、開発や商品の販路などの支援

特定非営利活動法人夢屋プラネットワークス

http://asoyumeya.org/

【所在地】　熊本県阿蘇市　　【対象者】　身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■地域活動支援センター「夢屋」の運営
　パン製造と配達販売等
■障がい者や高齢者用宿泊所「野菜ty（のなてぃ）」の運営

「地震で破損した施設内の修理工事」

実施内容

【助成額】480,924 円

熊本地震より被害を受けた簡易宿泊所兼本部所在地でもある「野菜ty（のなてぃ）」の瓦、トイレ、窓ガラスの修理。
瓦は地震に強い工法でやっていただき、全体的なズレもすべて直していただきました。
トイレは便器の撤去とともに新しい便座に取り替えていただきました。
窓ガラスはかなり大きなものを2枚張り替えていただきました。

今後の取り組み

今回の貴財団からのご支援により瓦、トイレ、窓ガラスの一部修理ができこれから予想される連鎖被害（雨漏り、火山灰の侵入など）を喰い止めることができました。
今後はさらに壁の亀裂を始め、細かな個所の修理を押し進める。
また、活用内容につきましても宿泊に限らず、定期的にミニコンサートやシンポジウム等を開催し、それらを通じて阿蘇の地での障がい者の“自立”や健常者との“共生”へ向けた活動を行いながら一層、個性的でユニークな会場となっていくよう、夢屋のメンバーやスタッフとともに、今以上に協力し合いながらやっていくことが必要と思われます。

選　考　委　員

選考委員長

立木　茂雄

同志社大学　社会学部社会学科　教授

髙橋　守雄

ひょうごボランタリープラザ　所長

中田　智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター　代表

松本　博子

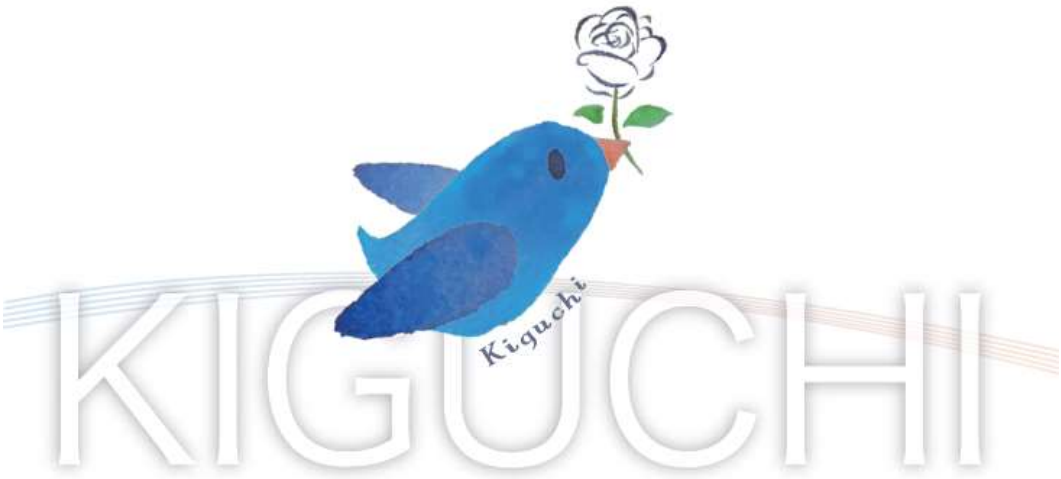
社会福祉法人兵庫県共同募金会　事務局長

山口　一史

公益財団法人コープともしびボランティア振興財団　理事長

横須賀　俊司

県立広島大学　保健福祉学部人間福祉学科　准教授



公益財団法人木口福祉財団
〒659-0051　芦屋市呉川町14番10号
TEL 0797-21-5150　　FAX 0797-35-4500
e-mail josei@kiguchi.or.jp URL http://www.kiguchi.or.jp

2019年2月発行